

2025 年度

# 鍼灸学科

- ・教育課程表
- ・実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
- ・授業概要（シラバス）

IGL医療福祉専門学校

鍼灸学科教育課程表

教育内容		指定 単位数	授業科目	区分	単位数	第1学年	第2学年	第3学年
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14	臨床心理学	講義	2 (30)	2 (30)		
			保健体育	演習	2 (30)	2 (30)		
			国語	講義	2 (30)	2 (30)		
			経営学	講義	2 (30)		2 (30)	
			薬理学	講義	2 (30)		2 (30)	
			栄養学	講義	2 (30)		2 (30)	
			情報学	演習	2 (30)		2 (30)	
小計	14			14 (210)	6 (90)	8 (120)	0 (0)	
専門基礎分野	人体の構造と機能	12	解剖学	講義	4 (120)	4 (120)		
			解剖生理学Ⅰ	講義	2 (60)	2 (60)		
			解剖生理学Ⅱ	講義	4 (120)	4 (120)		
			解剖生理学Ⅲ	講義	1 (30)		1 (30)	
			運動学	講義	1 (30)		1 (30)	
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	12	病理学概論	講義	2 (60)			2 (60)
			衛生学・公衆衛生学	講義	2 (60)			2 (60)
			臨床医学総論	講義	2 (60)		2 (60)	
			臨床医学各論Ⅰ	講義	4 (120)		4 (120)	
			臨床医学各論Ⅱ	講義	1 (30)		1 (30)	
	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	3	医療概論	講義	2 (60)			2 (60)
			関係法規	講義	1 (30)			1 (30)
小計	27			27 (810)	10 (300)	9 (270)	8 (240)	
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学	9	東洋医学概論Ⅰ	講義	4 (120)	4 (120)		
			経絡経穴概論Ⅰ	講義	3 (90)	3 (90)		
			はりきゅう理論	講義	2 (60)		2 (60)	
	臨床はり学 臨床きゅう学	13	東洋医学臨床論Ⅰ	講義	4 (120)		4 (120)	
			東洋医学臨床論Ⅱ	講義	2 (60)			2 (60)
			東洋医学概論Ⅱ	講義	2 (60)		2 (60)	
			症候診断学	講義	2 (60)		2 (60)	
			経絡経穴概論Ⅱ	実習	3 (90)	3 (90)		
	社会はり学 社会きゅう学	2	社会はりきゅう学	講義	2 (60)			2 (60)
	実習	15	鍼灸基礎実習Ⅰ	実習	4 (120)	4 (120)		
			鍼灸基礎実習Ⅱ	実習	2 (60)	2 (60)		
			鍼灸応用実習	実習	4 (120)		4 (120)	
			社会はりきゅう学実習	実習	2 (60)			2 (60)
			徒手検査法	実習	1 (30)		1 (30)	
			鍼灸各種療法	実習	2 (60)			2 (60)
	臨床実習	4	臨床実習Ⅰ	実習	1 (45)	1 (45)		
			臨床実習Ⅱ	実習	1 (45)		1 (45)	
			臨床実習Ⅲ	実習	2 (90)			2 (90)
	総合領域	10	総合演習Ⅰ	演習	2 (60)			2 (60)
			総合演習Ⅱ	演習	2 (60)			2 (60)
			総合演習Ⅲ	演習	2 (60)			2 (60)
総合演習Ⅳ			演習	3 (90)			3 (90)	
医療面接			講義	1 (30)		1 (30)		
小計	53			53 (1650)	17 (525)	17 (525)	19 (600)	
合計	94			94 (2670)	33 (915)	34 (915)	27 (840)	

## 2025年度「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

### 鍼灸学科

授業科目名	担当教員	単位数	担当教員がどのような実務経験をもち、実務経験を生かして、どのような教育を行うのか
東洋医学臨床論 I	尾野 佳代	4	鍼灸院での勤務経験をもち、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。
臨床医学各論 I	上垣内敬司	4	鍼灸院での勤務経験をもち、臨床経験が豊富である。東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。
社会はりきゅう学実習	尾野龍一	2	鍼灸院での勤務経験をもち、臨床経験をもとに臨床上よく遭遇する疾患についての知識及び代表的な治療法を伝え、学生たちに身に着けさせる。
合計		10	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床心理学	担当者 河村 隆史
種類 ( <span style="border: 1px solid black;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>臨床治療に携わる人にとって治療技術の習得が目的であることはいうまでもない。加えて、現在、治療の実践に当たって一人ひとりの人間を全体的存在として理解し治療することが求められている。本講座では、臨床心理学のこれまでの研究成果をもとに人間理解を深めることにより、治療効果を高めることを目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床心理学の歩み、心の構造、性格類型、心の発達、心理検査、心理療法について学ぶことで、人間理解を深める。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>治療が単に対症療法だけでなく、病を持つ人、すなわち人間であり、その人間を全体的存在として認識して治療場面に臨むようになり、治療者の資質向上につながる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 チーム医療と多職種協働</li> <li>2 健康心理学(臨床心理学)</li> <li>3 健康心理学(臨床心理学)におけるアセスメントと支援</li> <li>4 ストレスマネジメント</li> <li>5 医療心理学(臨床心理学)</li> <li>6 医療心理学(臨床心理学)におけるアセスメントと支援</li> <li>7 心理学の実際 精神科、児童精神科</li> <li>8 心理学の実際 独立型心理室</li> <li>9 心理学の実際 心療内科</li> <li>10 心理学の実際 小児科(母子保健含む)</li> <li>11 心理学の実際 緩和医療</li> <li>12 産業保健、保健活動</li> <li>13 災害心理学</li> <li>14 保健医療分野で必要な法制度</li> <li>15 まとめ、試験、解説</li> </ol> <p>(注) 講義の進み具合で上記スケジュールに変更があることをご承知ください</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>プリント(レジュメ)</p> <p>「公認心理士カリキュラム準拠 健康・医療心理学」第2版 医歯薬出版株式会社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験結果を重視し、小テスト、出席状況、授業態度を加味して総合的に評価する。</p>	

学科名 鍼灸学科	科目名 保健体育	担当者 太田 浩之
種類 ( 講義 ・ <u>演習</u> ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 <u>後期</u>		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>健康において運動は不可欠である。運動の重要性を理解し、将来に役立つ知識を習得する。また、レクリエーションを通じて心身の健康を増進させる。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>講義および実践</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>鍼灸治療のみならず、運動の重要性を説明し、患者に実践してもらうように伝えるスキルを身につける。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 座学(筋 神経 心臓 呼吸器) + トレーニング中国武術</li> <li>3 座学(エネルギー論 無酸素 有酸素トレーニング) + トレーニング</li> <li>4 トレーニング</li> <li>5 トレーニング</li> <li>6 トレーニング</li> <li>7 トレーニング</li> <li>8 トレーニング</li> <li>9 トレーニング</li> <li>10 トレーニング</li> <li>11 トレーニング</li> <li>12 トレーニング</li> <li>13 レクリエーション</li> <li>14 レクリエーション</li> <li>15 レクリエーション</li> </ol> <p>期末試験</p>		
[使用テキスト・参考文献] プリント		[単位認定の方法及び基準] 期末試験で60点以上で合格とする。

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 国語	担当者 伊達 佳弘
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>一般常識としての国語力の演習授業を通じて、漢字の読み書き・言葉の使い方・身につけておくべき語彙力の向上を目指す。小説の読解授業や意見交換などを通して、自分自身や他人の考え方を互いに尊重し合い、社会人として必要なコミュニケーション能力や表現力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>「国語常識の総演習」を使用して、国語力をつけるための演習と講義を行う。 夏目漱石の小説『こころ』を用い、読解力を深める中で、自他の考えを尊重する態度を養う。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>演習授業で学んだ国語力を身につけ、実用的に使用することができる。 1000字程度の意見文を書くことができる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <p>第1回 授業の解説とDVD(前編)視聴 第2回 DVD(後編)視聴 第3回 国語常識の演習 第1回AB(CD)・『こころ』の前半のあらすじ 第4回 国語常識の演習 第2回AB(CD)・『こころ』の読解 下 三十六・三十七 第5回 国語常識の演習 第3回AB(CD)・『こころ』の読解 下 三十八・三十九 第6回 国語常識の演習 第4回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十・四十一 第7回 国語常識の演習 第5回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十一・四十二 第8回 国語常識の演習 第6回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十二・四十三 第9回 国語常識の演習 第7回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十三・四十四・四十五 第10回 国語常識の演習 第8回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十五・四十六・四十七 第11回 国語常識の演習 第9回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十七・四十八 第12回 国語常識の演習 第10回AB(CD)・『こころ』の読解 下 四十八・まとめ 第13回 国語常識の演習 第11回AB(CD)・『こころ』まとめ・意見と感想 第14回 国語常識の演習 第12回AB(CD)・『こころ』まとめ テストに向けて 第15回 テストの解説</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>出版元 啓隆社 「テスト式 国語常識の総演習」修訂三版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業の演習プリント提出状況と確認テスト60点以上で合格とし、単位認定する。</p>	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 経営学	担当者 西手 満昭	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>[目的・ねらい]</p> <p>治療院を開設し、経営していくために必要な知識を学ぶとともに、継続的な経営を行うために実践していくべき能力の習得を目指す。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>教科書をベースに、治療院経営の考え方、販促手法、患者の固定化手法、接客、看板・内装・レイアウト、来院患者分析、他院との差別化、マネジメント手法などを学び、各自の目標に役立てる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>将来の独立開業を実現するための新規開業、および持続的経営の基礎的知識と能力を身に付ける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 経営学の基礎①(差別化・競合調査など)</li> <li>3 経営学の基礎②(ブランドイメージ・経営理念など)</li> <li>4 販売促進①(インターネットの活用)</li> <li>5 販売促進②(商圈特性・チラシ・ポスティングなど)</li> <li>6 販売促進③(当たるチラシのポイント)</li> <li>7 看板と内装レイアウト①(看板の種類と効果など)</li> <li>8 看板と内装レイアウト②(内装のポイント・POPなど)</li> <li>9 看板と内装レイアウト③(照明・クリンネスなど)</li> <li>10 患者の固定化(固定化の方策・挨拶状・治療計画・イベントなど)</li> <li>11 接客①(マニュアル作成・接客時の態度や用語など)</li> <li>12 接客②(コミュニケーション・クレーム対応など)</li> <li>13 人材育成(評価制度・採用・従業員満足度の向上)</li> <li>14 来院患者分析(患者数・男女比率・年齢構成・時間帯・総合分析・アンケートなど)</li> </ol> <p>期末試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15 安定的かつ持続的な治療院経営のポイント(多角的視野の形成)</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「最新版 儲かる!治療院経営のすべて」 吉田崇 同文館出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、欠席回数、授業態度を参考に100点満点で評価する。60点以上をもって単位認定する。</p>	

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 薬理学	担当者 今井 康夫	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>[目的・ねらい]</p> <p>医療用医薬品，一般用医薬品，サプリメントなど，患者さんが接する可能性のある薬物類について，作用，特徴，注意事項，副作用等についての基本的な知識と情報収集能力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>総論では薬物の一般的な作用機序，適用方法，代謝などについて，各論では薬物の種類ごとに基本的性質，特徴，最近話題になったことなどについて解説する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>将来，薬物を服用中の患者さんに接する機会があったとき，その薬物の作用・副作用を踏まえて，病態をより正確に判断できるようになる。また薬に関する新しい情報を把握し，情報の信頼性を評価できるように，基礎的な知識と考え方を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 薬物総論（1）</li> <li>2 薬物総論（2）</li> <li>3 受容体</li> <li>4 循環系治療薬（高脂血症，狭心症，高血圧，不整脈などの薬）</li> <li>5 消化器系治療薬（消化性潰瘍，便秘，下痢，肝疾患などの薬）</li> <li>6 呼吸器系治療薬（気管支喘息，COPDなどの薬）</li> <li>7 内分泌・代謝系治療薬（糖尿病，甲状腺疾患，痛風などの薬）</li> <li>8 鎮痛・抗炎症薬（リウマチの薬，解熱・鎮痛薬，ステロイド性抗炎症薬など）</li> <li>9 アレルギーの薬，皮膚病の薬（抗ヒスタミン薬，ステロイド性抗炎症薬など）</li> <li>10 感染症治療薬（抗菌薬，抗ウイルス薬，抗真菌薬，消毒薬など）</li> <li>11 神経・精神系治療薬（抗てんかん薬，抗うつ薬など）</li> <li>12 がんの薬，その他の薬</li> <li>13 生薬・漢方薬（特別講師を迎える予定）</li> <li>14 復習</li> <li>15 試験解説</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>イラストでまなぶ薬理学 第3版 田中越郎著 医学書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績によって評価する。試験は資料持込可とする。</p>	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 栄養学	担当者 津村 なみえ
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>食事(栄養摂取)・運動は、平均寿命、健康寿命の延伸、QOL(生活の質)に大きく影響する。日本人の栄養摂取、健康状態の変遷などを知り、栄養学の重要性を理解する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>栄養素の化学、食品とのかかわり、それを受け入れる生体側の生理学、疾病など総合的に学習し、栄養(食事)と健康のかかわりについて理解を深める。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>本授業で学習したことが、学生自身の日々の食事実践できるようになる。また、健康に関する専門家として現場で対応できるよう指導法についても習得する。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養とは 私たちと栄養 人体の構成成分と栄養素</li> <li>2 栄養素の機能と代謝①炭水化物</li> <li>3 栄養素の機能と代謝②脂質</li> <li>4 栄養素の機能と代謝③たんぱく質</li> <li>5 栄養素の機能と代謝④ビタミン</li> <li>6 栄養素の機能と代謝⑤無機質</li> <li>7 消化と吸収 消化と吸収のしくみ</li> <li>8 エネルギー代謝</li> <li>9 栄養状態の評価 栄養状態の評価と方法 集団の栄養状態の評価</li> <li>10 ライフステージ・ライフスタイルと栄養①年齢と栄養</li> <li>11 ライフステージ・ライフスタイルと栄養②労働・スポーツと栄養</li> <li>12 病態と栄養 栄養障害 病態時の栄養 食事療法</li> <li>13 栄養と調理 調理による栄養成分の変化 調理と消化吸収率</li> <li>14 食生活の展望と健康増進 復習及び後期試験対策 後期期末試験</li> <li>15 試験返却・解説 薬膳について</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能3 医学書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験で60点以上に単位を認定する。</p>

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 情報学	担当者 亀岡 百枝
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>ビジネスソフトWordとExcelを使用して、文書作成やデータ管理といった情報活用の技術を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>(1) コンピュータの基本操作 (2) 文書作成 (3) 表計算とデータ処理 (4) 情報の資料化について、演習形式で学んでいく。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>コンピュータの基本操作を習得し、ビジネスソフトを目的に応じて適切に使えるようになること。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス／Windows基礎</li> <li>2. 日本語入力</li> <li>3. Word基本操作</li> <li>4. 文字・段落の書式設定</li> <li>5. 表の作成</li> <li>6. 表の編集</li> <li>7. ページ設定</li> <li>8. Excel基本操作</li> <li>9. セルの書式／印刷</li> <li>10. 基本関数</li> <li>11. グラフ作成</li> <li>12. セルの絶対参照</li> <li>13. データベース</li> <li>14. 総合演習</li> <li>15. PowerPoint基本操作</li> </ol>		
[使用テキスト・参考文献] 配布資料あり		[単位認定の方法及び基準] 授業参加度 (20) 課題提出 (30) 実技テスト (50)

学科名 鍼灸学科	科目名 解剖学	担当者 原野雄矢
種類 (講義・演習・実習)	回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
<p><b>[目的・ねらい]</b> 運動器系解剖学の基礎を理解・記憶し、他科目の学習、国家試験、臨床に役立つものとする。</p> <p><b>[内容の概要]</b> 運動器系解剖学の用語と仕組みを理解・記憶する。 模型や人体を使って、体表からの触り方、動き等を確認していく。</p> <p><b>[修了時の達成課題(到達目標)]</b> 臨床科目の学習や国家試験解答に必要な知識の習得と応用力を身につける。 鍼灸の実技や臨床に役立つよう、動きや体表からの触知も含めて、立体的な構造を把握する。</p>		
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</b></p> <p>1 : 解剖学総論(用語など) 2～4 : 骨格系総論 5～6 : 筋総論 7～10 : 脊柱 11 : 胸郭 12～16 : 上肢の骨 17～21 : 下肢の骨 22 : 中間試験 23～27 : 頭蓋骨 28～29 : 復習 30～37 : 体幹の筋 38～45 : 上肢の筋 46 : 中間試験 47～54 : 下肢の筋 55～57 : 頭頸部の筋 58～60 : 復習</p>		
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> 解剖学 第2版 (東洋療法学校協会 編) 医歯薬出版株式会社 ボディナビゲーション 改訂版 医道の日本社</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> ● 中間試験・期末試験 ● 小テスト</p>

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 解剖生理学 I	担当者 原野 雄矢																																
種類 ( <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																
配当学年・時期 1 学年 <u>前期</u> <u>後期</u>																																		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>鍼灸師にとって必要な、人体の構造、機能の知識を身につけ、他の教科を学ぶ上で必要な土台を作る。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>人体の構成（細胞、組織等）、消化器系の構造と機能、泌尿器系の構造と機能、生殖器系の構造と機能について学ぶ。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>人体の構成、消化器、泌尿器、生殖器についての構造や機能を説明することができる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 解剖 細胞の構造</td> <td>16 生理 消化と吸収③</td> </tr> <tr> <td>2 解剖 細胞分裂と遺伝子</td> <td>17 生理 消化と吸収④</td> </tr> <tr> <td>3 解剖 組織①</td> <td>18 生理 代謝①</td> </tr> <tr> <td>4 解剖 組織②</td> <td>19 生理 代謝②</td> </tr> <tr> <td>5 解剖 組織③</td> <td>20 生理 体温①</td> </tr> <tr> <td>6 解剖 体表構造（皮膚）</td> <td>21 生理 体温②</td> </tr> <tr> <td>7 解剖 消化器①</td> <td>22 解剖 泌尿器</td> </tr> <tr> <td>8 解剖 消化器②</td> <td>23 まとめ・中間試験</td> </tr> <tr> <td>9 まとめ・中間試験</td> <td>24 生理 排泄①・試験解説</td> </tr> <tr> <td>10 解剖 消化器③・試験解説</td> <td>25 生理 排泄②</td> </tr> <tr> <td>11 解剖 消化器④</td> <td>26 解剖 生殖器①</td> </tr> <tr> <td>12 解剖 消化器⑤</td> <td>27 解剖 生殖器②</td> </tr> <tr> <td>13 生理 消化と吸収①</td> <td>28 解剖 生殖器③ 生理 生殖・成長と老化①</td> </tr> <tr> <td>14 生理 消化と吸収②</td> <td>29 生理 生殖・成長と老化②</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 試験解説</td> </tr> </table>			1 解剖 細胞の構造	16 生理 消化と吸収③	2 解剖 細胞分裂と遺伝子	17 生理 消化と吸収④	3 解剖 組織①	18 生理 代謝①	4 解剖 組織②	19 生理 代謝②	5 解剖 組織③	20 生理 体温①	6 解剖 体表構造（皮膚）	21 生理 体温②	7 解剖 消化器①	22 解剖 泌尿器	8 解剖 消化器②	23 まとめ・中間試験	9 まとめ・中間試験	24 生理 排泄①・試験解説	10 解剖 消化器③・試験解説	25 生理 排泄②	11 解剖 消化器④	26 解剖 生殖器①	12 解剖 消化器⑤	27 解剖 生殖器②	13 生理 消化と吸収①	28 解剖 生殖器③ 生理 生殖・成長と老化①	14 生理 消化と吸収②	29 生理 生殖・成長と老化②	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 解剖 細胞の構造	16 生理 消化と吸収③																																	
2 解剖 細胞分裂と遺伝子	17 生理 消化と吸収④																																	
3 解剖 組織①	18 生理 代謝①																																	
4 解剖 組織②	19 生理 代謝②																																	
5 解剖 組織③	20 生理 体温①																																	
6 解剖 体表構造（皮膚）	21 生理 体温②																																	
7 解剖 消化器①	22 解剖 泌尿器																																	
8 解剖 消化器②	23 まとめ・中間試験																																	
9 まとめ・中間試験	24 生理 排泄①・試験解説																																	
10 解剖 消化器③・試験解説	25 生理 排泄②																																	
11 解剖 消化器④	26 解剖 生殖器①																																	
12 解剖 消化器⑤	27 解剖 生殖器②																																	
13 生理 消化と吸収①	28 解剖 生殖器③ 生理 生殖・成長と老化①																																	
14 生理 消化と吸収②	29 生理 生殖・成長と老化②																																	
前期末試験	後期末試験																																	
15 試験解説	30 試験解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>東洋療法学校協会編 解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 生理学 第3版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>中間試験、期末試験で評価を行う。 中間試験、期末試験の平均60点以上の者を単位認定する。</p>																																	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 解剖生理学Ⅱ	担当者 南 一成																												
種類 ( <span style="border: 1px solid black;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)																												
配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>																														
<p>[目的・ねらい]</p> <p>解剖学を通し、人体の基本構造を理解し、生理学を通し、その機能を理解する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>スライドと教科書を使用しながら、人体の基本構造とその機能を学ぶ。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、学ぶ内容を理解できる知識を身につける。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1～3 細胞</td> <td style="width: 50%;">31～32 甲状腺ホルモン</td> </tr> <tr> <td>4～5 内呼吸・体液・物質の移動</td> <td>33～34 副甲状腺ホルモン</td> </tr> <tr> <td>6～11 血液</td> <td>33～36 糖代謝・膵臓のホルモン</td> </tr> <tr> <td>12～14 鼻～肺の構造</td> <td>37～42 副腎のホルモン</td> </tr> <tr> <td>15 前期中間試験</td> <td>43～44 性ホルモン・その他のホルモン</td> </tr> <tr> <td>16～20 呼吸運動</td> <td>45 後期中間試験</td> </tr> <tr> <td>21 肺気量</td> <td>46～47 心臓</td> </tr> <tr> <td>22 ガスの運搬他</td> <td>48 血管</td> </tr> <tr> <td>23 内分泌系の総論</td> <td>49 循環の調節</td> </tr> <tr> <td>24～26 視床下部～下垂体の構造</td> <td>50～54 動脈系</td> </tr> <tr> <td>27 下垂体ホルモン</td> <td>55～58 静脈系</td> </tr> <tr> <td>28～29 分泌調節</td> <td>58 胎児循環</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>59 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>30 解説</td> <td>60 解説</td> </tr> </table>			1～3 細胞	31～32 甲状腺ホルモン	4～5 内呼吸・体液・物質の移動	33～34 副甲状腺ホルモン	6～11 血液	33～36 糖代謝・膵臓のホルモン	12～14 鼻～肺の構造	37～42 副腎のホルモン	15 前期中間試験	43～44 性ホルモン・その他のホルモン	16～20 呼吸運動	45 後期中間試験	21 肺気量	46～47 心臓	22 ガスの運搬他	48 血管	23 内分泌系の総論	49 循環の調節	24～26 視床下部～下垂体の構造	50～54 動脈系	27 下垂体ホルモン	55～58 静脈系	28～29 分泌調節	58 胎児循環	前期末試験	59 後期末試験	30 解説	60 解説
1～3 細胞	31～32 甲状腺ホルモン																													
4～5 内呼吸・体液・物質の移動	33～34 副甲状腺ホルモン																													
6～11 血液	33～36 糖代謝・膵臓のホルモン																													
12～14 鼻～肺の構造	37～42 副腎のホルモン																													
15 前期中間試験	43～44 性ホルモン・その他のホルモン																													
16～20 呼吸運動	45 後期中間試験																													
21 肺気量	46～47 心臓																													
22 ガスの運搬他	48 血管																													
23 内分泌系の総論	49 循環の調節																													
24～26 視床下部～下垂体の構造	50～54 動脈系																													
27 下垂体ホルモン	55～58 静脈系																													
28～29 分泌調節	58 胎児循環																													
前期末試験	59 後期末試験																													
30 解説	60 解説																													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>解剖学 医歯薬出版 生理学 医歯薬出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験の成績・ミニテストの成績・平素の勉学状況等によって、100点満点で算出、60点以上を合格、60点未満を不合格とする</p> <p>試験は客観的試験を行なう。ミニテスト(数回)、中間試験、期末試験の3種類。</p>																													

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 解剖生理学Ⅲ	担当者 南 一成
種類 ( <span style="border: 1px solid black;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)
配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>鍼灸師にとって必要な、人体の構造、機能の知識を身につけ、他の教科を学ぶ上で必要な土台を作る</p> <p>[内容の概要]</p> <p>解剖学 第8章 神経系 第10章 局所解剖 (脈管・神経系)</p> <p>生理学 第10章 神経</p> <p style="text-align: center;">について学ぶ。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p style="text-align: center;">それぞれの単元についての構造や機能を説明することができる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 神経の構成と働き①</li> <li>2 神経の構成と働き②</li> <li>3 神経の構成と働き③</li> <li>4 中枢神経①</li> <li>5 中枢神経②</li> <li>6 末梢神経① 脳神経</li> <li>7 末梢神経② 脊髄神経</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 中間テスト</li> <li>10 局所解剖 体幹の脈管・神経</li> <li>11 局所解剖 上肢の脈管・神経</li> <li>12 局所解剖 下肢の脈管・神経</li> <li>13 局所解剖 頭頸部の脈管・神経</li> <li>14 復習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>東洋療法学校協会編 解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 生理学 第3版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>中間試験、期末試験で評価を行う。 中間試験、期末試験の平均60点以上の者を単位認定する。</p>

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 運動学	担当者 友末 亮三
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>からだのしくみと働きを学び、スポーツ・身体運動が心身に及ぼす効果・影響を理解する。 運動やスポーツに対する科学的な見方を総合的に修得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>私たちが運動をしているとき、からだの中ではどのようなことが起こっているのか。 その力学的・生理学的・解剖学的メカニズムを分かりやすく解説する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>運動時に体内ではどのような変化が起きているか、力学的・生理学的観点から説明できる。 運動とその改善に脳・神経系が大きな役割を果たしていることが理解できる。 日常の健康増進のための理論が理解できる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 運動の表わし方</li> <li>3 人の身体の動き</li> <li>4 関節のてこ作用</li> <li>5 二軸動作と自然体</li> <li>6 関節・骨格筋の構造と機能</li> <li>7 上肢の運動</li> <li>8 下肢の運動</li> <li>9 体幹の運動</li> <li>10 神経の構造と機能</li> <li>11 運動感覚、反射、随意運動</li> <li>12 姿勢</li> <li>13 歩行の運動学的分析</li> <li>14 異常歩行</li> <li>15 試験解説・運動発達、運動学習</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動学 齋藤宏他著 医歯薬出版</li> <li>・積極的マイナス思考のススメ 友末亮三著 スキージャーナル</li> </ul>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験 X、ミニレポート Y、授業中の態度 Z により評価する。評点算出式は次の通り。</p> $X \times 0.8 + Y \times 0.1 + Z \times 0.1$ <p>X、Y、Z は 100 点満点。</p>	

学科名 鍼灸学科	科目名 病理学概論	担当者 尾野龍一																																
種類 (講義・演習・実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)																																
配当学年・時期 3学年 前期 後期																																		
<p>[目的・ねらい] 病理学は病気の本態を究める学問であり、診断や治療の基礎となることから医療従事者はその知識を備える必要がある。西洋医学の立場から病理学を学ぶことによって鍼灸施術に役立てることを目標とする。</p> <p>[内容の概要] 病理学総論の内容に相当するものであり、病気の種類、原因、成り立つ機序、各種病変の経過と転帰について全身の組織・臓器に通じる基本的原則を生体構造の形態的变化を中心に学習する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)] 循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍、免疫異常、先天性異常に属する各種病変の名称、定義や概念、原因や発生机序を理解し、それらの経過と転帰に伴う形態的变化について説明できる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1 病理学とは、疾病についての基本的考え方</td><td>16 炎症①</td></tr> <tr><td>2 病因①</td><td>17 炎症②</td></tr> <tr><td>3 病因②</td><td>18 炎症③</td></tr> <tr><td>4 病因③</td><td>19 腫瘍①</td></tr> <tr><td>5 循環障害①</td><td>20 腫瘍②</td></tr> <tr><td>6 循環障害②</td><td>21 腫瘍③</td></tr> <tr><td>7 循環障害③</td><td>22 腫瘍④</td></tr> <tr><td>8 退行性病変①</td><td>23 腫瘍⑤</td></tr> <tr><td>9 中間試験</td><td>24 中間試験</td></tr> <tr><td>10 試験解説</td><td>25 試験解説</td></tr> <tr><td>11 退行性病変②</td><td>26 免疫異常・アレルギー①</td></tr> <tr><td>12 進行性病変①</td><td>27 免疫異常・アレルギー②</td></tr> <tr><td>13 進行性病変②</td><td>28 先天異常</td></tr> <tr><td>14 進行性病変③</td><td>後期末試験</td></tr> <tr><td>前期末試験</td><td>29 試験解説</td></tr> <tr><td>15 試験解説</td><td>30 国家試験問題演習</td></tr> </table>			1 病理学とは、疾病についての基本的考え方	16 炎症①	2 病因①	17 炎症②	3 病因②	18 炎症③	4 病因③	19 腫瘍①	5 循環障害①	20 腫瘍②	6 循環障害②	21 腫瘍③	7 循環障害③	22 腫瘍④	8 退行性病変①	23 腫瘍⑤	9 中間試験	24 中間試験	10 試験解説	25 試験解説	11 退行性病変②	26 免疫異常・アレルギー①	12 進行性病変①	27 免疫異常・アレルギー②	13 進行性病変②	28 先天異常	14 進行性病変③	後期末試験	前期末試験	29 試験解説	15 試験解説	30 国家試験問題演習
1 病理学とは、疾病についての基本的考え方	16 炎症①																																	
2 病因①	17 炎症②																																	
3 病因②	18 炎症③																																	
4 病因③	19 腫瘍①																																	
5 循環障害①	20 腫瘍②																																	
6 循環障害②	21 腫瘍③																																	
7 循環障害③	22 腫瘍④																																	
8 退行性病変①	23 腫瘍⑤																																	
9 中間試験	24 中間試験																																	
10 試験解説	25 試験解説																																	
11 退行性病変②	26 免疫異常・アレルギー①																																	
12 進行性病変①	27 免疫異常・アレルギー②																																	
13 進行性病変②	28 先天異常																																	
14 進行性病変③	後期末試験																																	
前期末試験	29 試験解説																																	
15 試験解説	30 国家試験問題演習																																	
<p>[使用テキスト・参考文献] 東洋療法学校協会編 病理学概論 第2版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 中間試験、期末試験で評価を行う。 中間試験、期末試験の平均60点以上の者を単位認定する。</p>																																

2025年度授業概要

必修

学科名 衛生学・公衆衛生学	科目名 衛生学・公衆衛生学	担当者 原野 雄矢																														
種類 ( <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)																														
配当学年・時期 3学年 <u>前期</u> <u>後期</u>																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>衛生学、公衆衛生学の原点は「人々の健康の保持。増進を図る」こと。感染症、環境保健、学校保健、母子保健、産業保健、国際保健など、健康に関わるあらゆる事象にそのテーマがある。現在、社会的・経済的状況や人々の生活習慣の急激な変化に伴い、衛生学・公衆衛生学の基礎的及び実験的研究を通して地域住民やコミュニティーに密着した実践的健康保持・増進事業に寄与することが切望されている。次世代の人々に「安全で安心して暮らすことのできる社会環境」を提供できることを目的とする。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>鍼灸師の立場から、現在の社会の状況を理解し、健康増進のために人々に説明することができる。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義</td> <td>16 第7章 母子保健</td> </tr> <tr> <td>2 第2章 健康①</td> <td>17 第8章 学校保健</td> </tr> <tr> <td>3 健康②</td> <td>18 第9章 成人・高齢者保健</td> </tr> <tr> <td>4 健康③</td> <td>19 第10章 感染症とその対策①</td> </tr> <tr> <td>5 第3章 ライフスタイルと健康①</td> <td>20 感染症とその対策②</td> </tr> <tr> <td>6 ライフスタイルと健康②</td> <td>21 第11章 消毒法①</td> </tr> <tr> <td>7 第4章 環境と健康①</td> <td>22 消毒法②</td> </tr> <tr> <td>8 環境と健康②</td> <td>23 第12章 疫学</td> </tr> <tr> <td>9 環境と健康③</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>10 環境と健康④</td> <td>25 第13章 保健統計①</td> </tr> <tr> <td>11 第5章 産業保健</td> <td>26 保健統計②</td> </tr> <tr> <td>12 第6章 精神保健①</td> <td>27 国家試験対策①</td> </tr> <tr> <td>13 精神保健②</td> <td>28 国家試験対策②</td> </tr> <tr> <td>14 復習</td> <td>29 国家試験対策③</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 国家試験対策④</td> </tr> </table>			1 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	16 第7章 母子保健	2 第2章 健康①	17 第8章 学校保健	3 健康②	18 第9章 成人・高齢者保健	4 健康③	19 第10章 感染症とその対策①	5 第3章 ライフスタイルと健康①	20 感染症とその対策②	6 ライフスタイルと健康②	21 第11章 消毒法①	7 第4章 環境と健康①	22 消毒法②	8 環境と健康②	23 第12章 疫学	9 環境と健康③	24	10 環境と健康④	25 第13章 保健統計①	11 第5章 産業保健	26 保健統計②	12 第6章 精神保健①	27 国家試験対策①	13 精神保健②	28 国家試験対策②	14 復習	29 国家試験対策③	15 試験解説	30 国家試験対策④
1 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	16 第7章 母子保健																															
2 第2章 健康①	17 第8章 学校保健																															
3 健康②	18 第9章 成人・高齢者保健																															
4 健康③	19 第10章 感染症とその対策①																															
5 第3章 ライフスタイルと健康①	20 感染症とその対策②																															
6 ライフスタイルと健康②	21 第11章 消毒法①																															
7 第4章 環境と健康①	22 消毒法②																															
8 環境と健康②	23 第12章 疫学																															
9 環境と健康③	24																															
10 環境と健康④	25 第13章 保健統計①																															
11 第5章 産業保健	26 保健統計②																															
12 第6章 精神保健①	27 国家試験対策①																															
13 精神保健②	28 国家試験対策②																															
14 復習	29 国家試験対策③																															
15 試験解説	30 国家試験対策④																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>衛生学・公衆衛生学 医歯薬出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期末試験・後期末試験の結果、平均60点以上を合格とする。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 臨床医学総論	科目名 臨床医学総論	担当者 南 一成																														
種類 ( <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)																														
配当学年・時期 2学年 <u>前期</u> <u>後期</u>																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>鍼灸師も現代の医療関係者として総合的な医療知識を獲得することは必須であり、臨床において的確な病態把握ができることは治療の効果、患者の信頼獲得などに大きな影響を与える。</p> <p>国家試験に合格できるように基本的事項を紹介する事は当然であるが、将来を見据えた授業を心がける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>各種症状から、考えられる疾患を説明する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>症状から西洋医学的病態把握ができる。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1 診察の方法①</td><td>16 反射</td></tr> <tr><td>2 診察の方法②</td><td>17 脳神経の検査①</td></tr> <tr><td>3 体温・脈拍</td><td>18 脳神経の検査②</td></tr> <tr><td>4 血圧・呼吸</td><td>19 脳神経の検査③</td></tr> <tr><td>5 顔貌・精神状態・言語</td><td>20 運動神経の障害</td></tr> <tr><td>6 身体計測・体格・栄養状態・姿勢と体位</td><td>21 運動失調①</td></tr> <tr><td>7 歩行・皮膚</td><td>22 運動失調②</td></tr> <tr><td>8 爪・リンパ節・その他</td><td>23 その他の診察</td></tr> <tr><td>9 頭部・顔面</td><td>24 尿検査</td></tr> <tr><td>10 眼</td><td>25 血液検査①</td></tr> <tr><td>11 鼻・耳・口腔</td><td>26 血液検査②</td></tr> <tr><td>12 頸部・胸部</td><td>27 主な症状の診察法①</td></tr> <tr><td>13 肺・心臓・腹部</td><td>28 主な症状の診察法②</td></tr> <tr><td>14 まとめ</td><td>29 まとめ</td></tr> <tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr> </table>			1 診察の方法①	16 反射	2 診察の方法②	17 脳神経の検査①	3 体温・脈拍	18 脳神経の検査②	4 血圧・呼吸	19 脳神経の検査③	5 顔貌・精神状態・言語	20 運動神経の障害	6 身体計測・体格・栄養状態・姿勢と体位	21 運動失調①	7 歩行・皮膚	22 運動失調②	8 爪・リンパ節・その他	23 その他の診察	9 頭部・顔面	24 尿検査	10 眼	25 血液検査①	11 鼻・耳・口腔	26 血液検査②	12 頸部・胸部	27 主な症状の診察法①	13 肺・心臓・腹部	28 主な症状の診察法②	14 まとめ	29 まとめ	15 試験解説	30 試験解説
1 診察の方法①	16 反射																															
2 診察の方法②	17 脳神経の検査①																															
3 体温・脈拍	18 脳神経の検査②																															
4 血圧・呼吸	19 脳神経の検査③																															
5 顔貌・精神状態・言語	20 運動神経の障害																															
6 身体計測・体格・栄養状態・姿勢と体位	21 運動失調①																															
7 歩行・皮膚	22 運動失調②																															
8 爪・リンパ節・その他	23 その他の診察																															
9 頭部・顔面	24 尿検査																															
10 眼	25 血液検査①																															
11 鼻・耳・口腔	26 血液検査②																															
12 頸部・胸部	27 主な症状の診察法①																															
13 肺・心臓・腹部	28 主な症状の診察法②																															
14 まとめ	29 まとめ																															
15 試験解説	30 試験解説																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>臨床医学総論 奈良信雄著 医歯薬出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験において平均60点以上を合格とする。</p>																														

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床医学各論 I	担当者 上垣内 敬司																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)																														
配当学年・時期 2学年 前期 後期																																
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院に勤務しており、臨床経験が豊富な教員が、東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、性状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得し、また、主要疾患に関してはその病態生理と症状の発現に関して理解しながら、各疾患の病態メカニズムについてその知識を深める。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>一般医学における各系統の疾患についての基本的な知識を習得する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)</td> <td>31 糖尿病</td> </tr> <tr> <td>2～4 消化器疾患 (食道・胃)</td> <td>32～33 その他の代謝性疾患</td> </tr> <tr> <td>5～7 消化器疾患 (腸疾患)</td> <td>34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)</td> </tr> <tr> <td>8～10 肝臓疾患</td> <td>37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)</td> </tr> <tr> <td>11 胆のう、胆道系疾患</td> <td>38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)</td> </tr> <tr> <td>12 膵臓疾患</td> <td>40～41 循環器疾患 (その他)</td> </tr> <tr> <td>13 呼吸器疾患 (感染性)</td> <td>42～43 血液疾患 (貧血)</td> </tr> <tr> <td>14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)</td> <td>44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)</td> </tr> <tr> <td>16 中間試験</td> <td>45 中間試験</td> </tr> <tr> <td>17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)</td> <td>46～48 膠原病</td> </tr> <tr> <td>20～22 腎臓疾患</td> <td>49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)</td> </tr> <tr> <td>23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患</td> <td>54～55 神経疾患 (変性疾患)</td> </tr> <tr> <td>25～29 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)</td> <td>56 神経疾患 (認知症)</td> </tr> <tr> <td>前期期末試験</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>30 試験解説</td> <td>60 試験解説</td> </tr> </table>			1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)	31 糖尿病	2～4 消化器疾患 (食道・胃)	32～33 その他の代謝性疾患	5～7 消化器疾患 (腸疾患)	34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)	8～10 肝臓疾患	37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)	11 胆のう、胆道系疾患	38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)	12 膵臓疾患	40～41 循環器疾患 (その他)	13 呼吸器疾患 (感染性)	42～43 血液疾患 (貧血)	14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)	44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)	16 中間試験	45 中間試験	17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)	46～48 膠原病	20～22 腎臓疾患	49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)	23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54～55 神経疾患 (変性疾患)	25～29 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患 (認知症)	前期期末試験	後期期末試験	30 試験解説	60 試験解説
1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)	31 糖尿病																															
2～4 消化器疾患 (食道・胃)	32～33 その他の代謝性疾患																															
5～7 消化器疾患 (腸疾患)	34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)																															
8～10 肝臓疾患	37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)																															
11 胆のう、胆道系疾患	38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)																															
12 膵臓疾患	40～41 循環器疾患 (その他)																															
13 呼吸器疾患 (感染性)	42～43 血液疾患 (貧血)																															
14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)	44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)																															
16 中間試験	45 中間試験																															
17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)	46～48 膠原病																															
20～22 腎臓疾患	49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)																															
23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54～55 神経疾患 (変性疾患)																															
25～29 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患 (認知症)																															
前期期末試験	後期期末試験																															
30 試験解説	60 試験解説																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「臨床医学各論」 医道の日本社  「STEP内科」 海馬書房  「病気がみえる」 メディックメディア</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記による試験 (中間及び期末) を評価の対象とし、60点以上取得したものを合格とし、単位取得とする。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床医学各論Ⅱ	担当者 南 一成
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>解剖生理学を基本としたうえで、各種整形外科疾患の原因や臨床的な症状、検査、治療法などを理解し、鑑別能力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>整形外科疾患の症状、基本的な診断法および治療法の概略を解説する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論・関節疾患①</li> <li>2 関節疾患②</li> <li>3 骨代謝性疾患</li> <li>4 骨腫瘍</li> <li>5 筋・腱疾患①</li> <li>6 筋・腱疾患②</li> <li>7 形態異常</li> <li>8 脊椎疾患①</li> <li>9 脊椎疾患②</li> <li>10 脊髄損傷</li> <li>11 外傷</li> <li>12 その他の整形外科疾患</li> <li>13 その他の整形外科疾患</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 試験解説</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>臨床医学各論 医道の日本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験にて評価し60点以上で合格とする。</p>

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 リハビリテーション医学	担当者 徳森 公彦	
種類 ( <span style="border: 1px solid black;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 3学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> 後期
<p>[目的・ねらい] リハビリテーションの概念と基本的な疾患別リハビリテーションについて理解する。</p> <p>[内容の概要] リハビリテーションの概念、ICFについて。検査と測定に関する基本知識。中枢神経疾患・骨関節疾患呼吸・循環障害の基本的な理学療法。義肢装具に関する基本的な知識に関する講義を行う。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)] ICIDHとICFの違い、メジャーな疾患に対する基本的なリハビリテーションが説明できる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの歴史と概念</li> <li>2 リハビリテーションの概念とチームアプローチ</li> <li>3 リハビリテーション医学</li> <li>4 リハビリテーション医学の基礎知識</li> <li>5 リハビリテーションの評価と診断</li> <li>6 リハビリテーションの評価と診断</li> <li>7 リハビリテーションの治療</li> <li>8 リハビリテーションの治療</li> <li>9 リハビリテーション医学と関連職種</li> <li>10 リハビリテーションの実際</li> <li>11 リハビリテーションの実際</li> <li>12 リハビリテーションと福祉</li> <li>13 まとめ①</li> <li>14 まとめ②</li> </ol> <p>期末試験</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15 試験解説</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] リハビリテーション医学 第4版 東洋療法学校協会編		[単位認定の方法及び基準] 出席点 10%、試験 80%、授業態度 10%	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 医療概論	担当者 南 一成																																
種類 ( <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																
配当学年・時期 3学年 <u>前期</u> <u>後期</u>																																		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>我が国の医療・社会保障制度の特色と現代社会における問題点などを社会的・歴史的背景を踏まえた上で理解する。また、医療の実践において重要な倫理観を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>医学・医療の歴史を学び、現代社会の医療・社会保障制度の課題を認識した上で、医療倫理について学習する。また、業界団体関係者や卒業生を特別講師に招く。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>我が国の社会的・歴史的背景を踏まえた上で、現代社会の医療・社会保障制度の課題を認識し、医療従事者の一員として社会に貢献できる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 概論</td> <td style="width: 50%;">1 特別講義（救急救命）</td> </tr> <tr> <td>2 現代医学の課題</td> <td>2 特別講義（救急救命）</td> </tr> <tr> <td>3 医療施設</td> <td>3 特別講義（介護関係）</td> </tr> <tr> <td>4 医療費</td> <td>4 特別講義（経絡治療）</td> </tr> <tr> <td>5 医療保険</td> <td>5 特別講義（経絡治療）</td> </tr> <tr> <td>6 介護保険</td> <td>6 特別講義（美容鍼）</td> </tr> <tr> <td>7 社会保障制度</td> <td>7 特別講義（美容鍼）</td> </tr> <tr> <td>8 医療倫理</td> <td>8 特別講義（超音波画像診断）</td> </tr> <tr> <td>9 鍼灸療養費</td> <td>9 特別講義</td> </tr> <tr> <td>10 西洋の医学と医療の歴史①</td> <td>10 特別講義</td> </tr> <tr> <td>11 西洋の医学と医療の歴史②</td> <td>11 特別講義</td> </tr> <tr> <td>12 特別講義（いやしの道）</td> <td>12 国家試験対策</td> </tr> <tr> <td>13 特別講義（保険請求について）</td> <td>13 国家試験対策</td> </tr> <tr> <td>14 特別講義（保険請求について）</td> <td>14 国家試験対策</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ（課題）</td> <td>15 特別講義</td> </tr> </table>			1 概論	1 特別講義（救急救命）	2 現代医学の課題	2 特別講義（救急救命）	3 医療施設	3 特別講義（介護関係）	4 医療費	4 特別講義（経絡治療）	5 医療保険	5 特別講義（経絡治療）	6 介護保険	6 特別講義（美容鍼）	7 社会保障制度	7 特別講義（美容鍼）	8 医療倫理	8 特別講義（超音波画像診断）	9 鍼灸療養費	9 特別講義	10 西洋の医学と医療の歴史①	10 特別講義	11 西洋の医学と医療の歴史②	11 特別講義	12 特別講義（いやしの道）	12 国家試験対策	13 特別講義（保険請求について）	13 国家試験対策	14 特別講義（保険請求について）	14 国家試験対策	期末試験	期末試験	15 まとめ（課題）	15 特別講義
1 概論	1 特別講義（救急救命）																																	
2 現代医学の課題	2 特別講義（救急救命）																																	
3 医療施設	3 特別講義（介護関係）																																	
4 医療費	4 特別講義（経絡治療）																																	
5 医療保険	5 特別講義（経絡治療）																																	
6 介護保険	6 特別講義（美容鍼）																																	
7 社会保障制度	7 特別講義（美容鍼）																																	
8 医療倫理	8 特別講義（超音波画像診断）																																	
9 鍼灸療養費	9 特別講義																																	
10 西洋の医学と医療の歴史①	10 特別講義																																	
11 西洋の医学と医療の歴史②	11 特別講義																																	
12 特別講義（いやしの道）	12 国家試験対策																																	
13 特別講義（保険請求について）	13 国家試験対策																																	
14 特別講義（保険請求について）	14 国家試験対策																																	
期末試験	期末試験																																	
15 まとめ（課題）	15 特別講義																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「医療概論」医道の日本社</p> <p>「社会あはき学」医道の日本社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期・後期末試験にて評価し60点以上で合格とする。</p>																																	

学科名 鍼灸学科	科目名 関係法規	担当者 南 一成
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)
配当学年・時期 3学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>国家試験の合格のための必要な知識の習得。 実務において必要となる法的思考の習得。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>免許、業務、施術所、広告など頻出項目に時間をかけつつ、頻度は低いものの出題される項目についても網羅した授業を展開する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>免許や業務に関する論点を中心に基本的項目を絶対に間違えない知識を定着させ、国家試験合格レベルを確保する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全体の流れについて、法とは何か</li> <li>2 免許と試験①</li> <li>3 免許と試験②</li> <li>4 業務①</li> <li>5 業務②</li> <li>6 広告</li> <li>7 学校、養成施設</li> <li>8 医師法その他の医療従事者に関する法律</li> <li>9 薬事法規、衛生関係法規</li> <li>10 社会福祉関係法規</li> <li>11 社会保険関係法規</li> <li>12 その他の関係法規</li> <li>13 税金について</li> <li>14 復習</li> <li>15 試験解説</li> </ol>		
[使用テキスト・参考文献] 関係法規 第7版 医歯薬出版株式会社		[単位認定の方法及び基準] 期末試験で評価する。(60%以上で合格)

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学概論 I	担当者 副田 恵子																																										
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)																																										
配当学年・時期 1学年 前期 後期																																												
<p>[目的・ねらい]</p> <p>東洋医学の基本的な知識や考え方を学習し、国家試験合格に必要な東洋医学的知識を習得した上で、東洋医学的病態把握や鍼灸治療を実践するために必要な能力の基礎を築く。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>テキストプリントへの書き込みを中心に講義を行う。</p> <p>各項目終了後には小テスト・確認問題・国家試験問題を解く。宿題とする場合もある。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>東洋医学の基本的な知識や考え方を総合的に理解し習得する。</p>																																												
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">1～3 東洋医学の定義と特徴</td> <td style="width:33%;">31～34 病因・病機</td> <td style="width:33%;"></td> </tr> <tr> <td>4～7 五行学説</td> <td>35～38 八綱弁証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8～11 陰陽学説</td> <td>39～42 気血津液弁証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12～15 気血津液</td> <td>43 中間試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 中間試験</td> <td>44～46 肝・胆の病証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17～18 肝の生理作用</td> <td>47～49 心・小腸の病証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19～20 心の生理作用</td> <td>50～52 脾・胃の病証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21～22 脾の生理作用</td> <td>53～55 肺・大腸の病証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>23～24 肺の生理作用</td> <td>56～58 腎・膀胱の病証</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25～26 腎の生理作用</td> <td>59 経絡の概要と病理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>27～28 六腑の生理作用</td> <td>後期末試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>29 復習・予習</td> <td>60 試験解説</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>30 試験解説</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			1～3 東洋医学の定義と特徴	31～34 病因・病機		4～7 五行学説	35～38 八綱弁証		8～11 陰陽学説	39～42 気血津液弁証		12～15 気血津液	43 中間試験		16 中間試験	44～46 肝・胆の病証		17～18 肝の生理作用	47～49 心・小腸の病証		19～20 心の生理作用	50～52 脾・胃の病証		21～22 脾の生理作用	53～55 肺・大腸の病証		23～24 肺の生理作用	56～58 腎・膀胱の病証		25～26 腎の生理作用	59 経絡の概要と病理		27～28 六腑の生理作用	後期末試験		29 復習・予習	60 試験解説		前期末試験			30 試験解説		
1～3 東洋医学の定義と特徴	31～34 病因・病機																																											
4～7 五行学説	35～38 八綱弁証																																											
8～11 陰陽学説	39～42 気血津液弁証																																											
12～15 気血津液	43 中間試験																																											
16 中間試験	44～46 肝・胆の病証																																											
17～18 肝の生理作用	47～49 心・小腸の病証																																											
19～20 心の生理作用	50～52 脾・胃の病証																																											
21～22 脾の生理作用	53～55 肺・大腸の病証																																											
23～24 肺の生理作用	56～58 腎・膀胱の病証																																											
25～26 腎の生理作用	59 経絡の概要と病理																																											
27～28 六腑の生理作用	後期末試験																																											
29 復習・予習	60 試験解説																																											
前期末試験																																												
30 試験解説																																												
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「新版 東洋医学概論」医道の日本社</p> <p>「針灸学 [基礎篇]」東洋学術出版社</p> <p>「わかりやすい臨床中医臓腑学 第3版」医歯薬出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。(学生便覧参照)</p> <p>※小テストの結果や宿題・課題の提出状況も加味する。</p>																																											

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 経絡経穴概論 I	担当者 佐藤 隆誠																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 45回	時間数(単位数) 90時間 (3単位)																																
配当学年・時期 1学年 前期 後期																																		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>経絡・経穴の概念を理解し、流注や部位を記憶することで、国家試験や臨床のための基礎を確立する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>経絡の流注、経穴の部位を確認し、記憶する。参考として、経穴の主治や名前の由来、臨床での応用技法等を紹介する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>経穴の部位を解剖学的に正確に言えるようにする。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1-2 概論</td> <td style="width: 50%;">23 足の太陽膀胱経</td> </tr> <tr> <td>3-4 骨度法</td> <td>24-25 足の少陰腎経</td> </tr> <tr> <td>5-7 督脈</td> <td>26 手の厥陰心包経</td> </tr> <tr> <td>8-9 任脈</td> <td>27-29 手の少陽三焦経</td> </tr> <tr> <td>10-11 手の太陰肺経</td> <td>30-33 足の少陽胆経①</td> </tr> <tr> <td>12-13 手の陽明大腸経</td> <td>34-37 足の少陽胆経②</td> </tr> <tr> <td>14 まとめ・中間試験</td> <td>38-39 足の厥陰肝経</td> </tr> <tr> <td>15 解説・足の陽明胃経①</td> <td>40 まとめ・中間試験</td> </tr> <tr> <td>16 足の陽明胃経②</td> <td>41 解説・奇経八脈</td> </tr> <tr> <td>17 足の太陰脾経</td> <td>42 経絡・経穴の現代的な研究</td> </tr> <tr> <td>18 手の少陰心経</td> <td>43 奇穴①</td> </tr> <tr> <td>19 手の太陽小腸経</td> <td>44 奇穴②</td> </tr> <tr> <td>20 要穴</td> <td>まとめ・期末試験</td> </tr> <tr> <td>21 足の太陽膀胱経</td> <td>45 解説・復習</td> </tr> <tr> <td>まとめ・期末試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22 解説・足の太陽膀胱経</td> <td></td> </tr> </table>			1-2 概論	23 足の太陽膀胱経	3-4 骨度法	24-25 足の少陰腎経	5-7 督脈	26 手の厥陰心包経	8-9 任脈	27-29 手の少陽三焦経	10-11 手の太陰肺経	30-33 足の少陽胆経①	12-13 手の陽明大腸経	34-37 足の少陽胆経②	14 まとめ・中間試験	38-39 足の厥陰肝経	15 解説・足の陽明胃経①	40 まとめ・中間試験	16 足の陽明胃経②	41 解説・奇経八脈	17 足の太陰脾経	42 経絡・経穴の現代的な研究	18 手の少陰心経	43 奇穴①	19 手の太陽小腸経	44 奇穴②	20 要穴	まとめ・期末試験	21 足の太陽膀胱経	45 解説・復習	まとめ・期末試験		22 解説・足の太陽膀胱経	
1-2 概論	23 足の太陽膀胱経																																	
3-4 骨度法	24-25 足の少陰腎経																																	
5-7 督脈	26 手の厥陰心包経																																	
8-9 任脈	27-29 手の少陽三焦経																																	
10-11 手の太陰肺経	30-33 足の少陽胆経①																																	
12-13 手の陽明大腸経	34-37 足の少陽胆経②																																	
14 まとめ・中間試験	38-39 足の厥陰肝経																																	
15 解説・足の陽明胃経①	40 まとめ・中間試験																																	
16 足の陽明胃経②	41 解説・奇経八脈																																	
17 足の太陰脾経	42 経絡・経穴の現代的な研究																																	
18 手の少陰心経	43 奇穴①																																	
19 手の太陽小腸経	44 奇穴②																																	
20 要穴	まとめ・期末試験																																	
21 足の太陽膀胱経	45 解説・復習																																	
まとめ・期末試験																																		
22 解説・足の太陽膀胱経																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新版 経絡経穴概論 医道の日本社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>中間試験及び期末試験、授業中に行う小テストを評価の対象とします。</p> <p>中間評価＝小テスト 10%＋中間試験 90%</p> <p>期末評価＝小テスト 10%＋期末試験 90%</p>																																	

2 0 2 5 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 はりきゅう理論	担当者 南 一成 (前期) 原野 雄矢 (後期)	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>[目的・ねらい]</p> <p>鍼灸刺激によって生じる種々の生体反応の機序を科学的に理解する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>プリントを配布し、穴埋め形式により授業を展開する。</p> <p>解剖学 第9章 生理学 第11章 筋 第12章 運動 第13章 感覚 第14章 生体の防御機構 第15章 身体活動の協調</p> <p>はりきゅう理論 第9章～第11章</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>鍼灸の治効機序を理解し、今後の臨床に役立てることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各界のテーマ・内用]</p> <p>1 リンパ系 2 リンパ系 3 リンパ系 4 感覚器系 (解剖学9章 生理学13章) 5 感覚器系 (解剖学9章 生理学13章) 6 感覚器系 (解剖学9章 生理学13章) 7 まとめ 8 中間テスト 9 筋 (生理学11章) 10 運動 (生理学12章) 11 運動 (生理学12章) 12 鍼灸治効の基礎 (はりきゅう理論) 13 鍼灸治効の基礎 (はりきゅう理論) 14 まとめ 15 生体の防御機構 (生理学14章)</p>		<p>(はりきゅう理論)</p> <p>16 鍼灸刺激と反射 17 鍼灸刺激と反射 18 鍼鎮痛 19 鍼鎮痛・ゲートコントロール説 20 刺激と反応 21 鍼灸療法の一般的治効論 (自律神経) 22 鍼灸療法の一般的治効論 (自律神経) 23 鍼灸療法の一般的治効論 (軸索反射) 24 鍼灸療法の一般的治効論 (軸索反射) 25 鍼灸療法の一般的治効論 (灸と炎症) 26 関連学説 27 関連学説 28 関連学説 29 復習 30 生理学 第15章</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>はりきゅう理論・生理学・解剖学 ; 医道の日本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 100点満点中 60点以上で合格とする。</p>	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論 I	担当者 尾野 佳代
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっている教員が、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を、教科書をベースに配布資料を交えて学習する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>西洋医学に基づく考え方と東洋医学に基づく考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
1・2 治療総論	31・32 関節痛	
3・4 治療総論／肩こり	33・34 関節痛／頸肩腕痛	
5・6 肩こり／頭痛	35・36 頸肩腕痛	
7・8 頭痛	37・38 上肢痛	
9・10 頭痛／顔面痛	39・40 肩関節痛	
11・12 顔面痛／歯痛	41・42 肩関節痛／腰痛	
13・14 歯痛／眼精疲労	43・44 腰痛／腰下肢痛	
15 中間試験	45・46 腰下肢痛	
16・17 眼精疲労／めまい	47 中間試験	
18・19 めまい	48・49 下肢痛	
20・21 耳鳴り・難聴	50・51 下肢痛／膝痛	
22・23 耳鳴り・難聴／咳嗽と喀痰	52・53 膝痛	
24・25 咳嗽と喀痰／呼吸困難	54・55 膝痛／歩行異常	
26・27 呼吸困難	56・57 歩行異常	
28・29 鼻閉・鼻汁	58・59 顔面麻痺	
まとめ・前期末試験	まとめ・後期末試験	
30 試験解説／関節痛	60 試験解説／顔面麻痺	
[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]	
「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」南江堂 「臨床医学各論 第2版」医歯薬出版株式会社 「臨床医学総論 第2版」医歯薬出版株式会社	年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。(学生便覧参照)	

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論Ⅱ	担当者 尾野 佳代																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)																																
配当学年・時期 3学年 前期 後期																																		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。同時に、国家試験合格に向けより高い正答率を目指す。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方を、教科書ベースに配布資料を交えて学習する。同時に、国家試験の過去問を解く。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p> <p>同時に、国家試験過去問の正答率80%以上を目指す。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1 顔面麻痺／胸痛</td><td>16 睡眠障害</td></tr> <tr><td>2 胸痛／腹痛</td><td>17 睡眠障害</td></tr> <tr><td>3 腹痛</td><td>18 睡眠障害</td></tr> <tr><td>4 腹痛／便秘</td><td>19 疲労と倦怠感</td></tr> <tr><td>5 便秘</td><td>20 疲労と倦怠感</td></tr> <tr><td>6 下痢</td><td>21 疲労と倦怠感</td></tr> <tr><td>7 下痢／悪心・嘔吐</td><td>22 ED(勃起障害)</td></tr> <tr><td>8 悪心・嘔吐</td><td>23 ED(勃起障害)</td></tr> <tr><td>9 悪心・嘔吐／食欲不振</td><td>24 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹</td></tr> <tr><td>10 食欲不振</td><td>25 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹</td></tr> <tr><td>11 食欲不振／排尿障害</td><td>26 国家試験対策</td></tr> <tr><td>12 排尿障害</td><td>27 国家試験対策</td></tr> <tr><td>13 排尿障害／脱毛症</td><td>28 国家試験対策</td></tr> <tr><td>14 脱毛症</td><td>29 国家試験対策</td></tr> <tr><td>前期末試験</td><td>後期末試験</td></tr> <tr><td>15 試験解説／睡眠障害</td><td>30 まとめ</td></tr> </table>			1 顔面麻痺／胸痛	16 睡眠障害	2 胸痛／腹痛	17 睡眠障害	3 腹痛	18 睡眠障害	4 腹痛／便秘	19 疲労と倦怠感	5 便秘	20 疲労と倦怠感	6 下痢	21 疲労と倦怠感	7 下痢／悪心・嘔吐	22 ED(勃起障害)	8 悪心・嘔吐	23 ED(勃起障害)	9 悪心・嘔吐／食欲不振	24 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹	10 食欲不振	25 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹	11 食欲不振／排尿障害	26 国家試験対策	12 排尿障害	27 国家試験対策	13 排尿障害／脱毛症	28 国家試験対策	14 脱毛症	29 国家試験対策	前期末試験	後期末試験	15 試験解説／睡眠障害	30 まとめ
1 顔面麻痺／胸痛	16 睡眠障害																																	
2 胸痛／腹痛	17 睡眠障害																																	
3 腹痛	18 睡眠障害																																	
4 腹痛／便秘	19 疲労と倦怠感																																	
5 便秘	20 疲労と倦怠感																																	
6 下痢	21 疲労と倦怠感																																	
7 下痢／悪心・嘔吐	22 ED(勃起障害)																																	
8 悪心・嘔吐	23 ED(勃起障害)																																	
9 悪心・嘔吐／食欲不振	24 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹																																	
10 食欲不振	25 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹																																	
11 食欲不振／排尿障害	26 国家試験対策																																	
12 排尿障害	27 国家試験対策																																	
13 排尿障害／脱毛症	28 国家試験対策																																	
14 脱毛症	29 国家試験対策																																	
前期末試験	後期末試験																																	
15 試験解説／睡眠障害	30 まとめ																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」南江堂  「新版 東洋医学概論」医道の日本社  「臨床医学各論第2版」医歯薬出版株式会社  「臨床医学総論第2版」医歯薬出版株式会社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>年2回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。後期末試験は第5回実力判定試験と兼ねて実施する。(学生便覧参照)</p>																																

## 2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学概論Ⅱ		担当者 副田 恵子																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期																														
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に学習した東洋医学の基本的な考え方や知識の定着をはかるとともに、今後臨床において、東洋医学的な病態把握や治療をするための基礎を学習する。また、様々な特殊鍼法について学び、治療の幅を広げる。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>東洋医学の臨床において必要な、四診（望診，聞診，問診，切診）を学び東洋医学的な病態把握や治療をするための基礎と特殊鍼法について学習する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>四診を用い東洋医学的な病態把握を行うことができる。様々な特殊鍼法の基本的知識を理解する。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>1 復習</td><td>16 治療法の概要</td></tr> <tr><td>2 復習</td><td>17 治療法の概要</td></tr> <tr><td>3 復習</td><td>18 耳鍼・マグレイン</td></tr> <tr><td>4 望診</td><td>19 美容鍼</td></tr> <tr><td>5 望診</td><td>20 美容鍼</td></tr> <tr><td>6 聞診</td><td>21 小児鍼</td></tr> <tr><td>7 聞診</td><td>22 小児鍼</td></tr> <tr><td>8 問診</td><td>23 皮内鍼・円皮鍼</td></tr> <tr><td>9 問診</td><td>24 温筒灸・温灸器</td></tr> <tr><td>10 問診</td><td>25 温筒灸・温灸器</td></tr> <tr><td>11 切診</td><td>26 灸頭鍼</td></tr> <tr><td>12 切診</td><td>27 吸玉</td></tr> <tr><td>13 切診</td><td>28 吸玉</td></tr> <tr><td>14 復習</td><td>29 箱灸</td></tr> <tr><td>15 解説</td><td>30 解説</td></tr> </table>				1 復習	16 治療法の概要	2 復習	17 治療法の概要	3 復習	18 耳鍼・マグレイン	4 望診	19 美容鍼	5 望診	20 美容鍼	6 聞診	21 小児鍼	7 聞診	22 小児鍼	8 問診	23 皮内鍼・円皮鍼	9 問診	24 温筒灸・温灸器	10 問診	25 温筒灸・温灸器	11 切診	26 灸頭鍼	12 切診	27 吸玉	13 切診	28 吸玉	14 復習	29 箱灸	15 解説	30 解説
1 復習	16 治療法の概要																																
2 復習	17 治療法の概要																																
3 復習	18 耳鍼・マグレイン																																
4 望診	19 美容鍼																																
5 望診	20 美容鍼																																
6 聞診	21 小児鍼																																
7 聞診	22 小児鍼																																
8 問診	23 皮内鍼・円皮鍼																																
9 問診	24 温筒灸・温灸器																																
10 問診	25 温筒灸・温灸器																																
11 切診	26 灸頭鍼																																
12 切診	27 吸玉																																
13 切診	28 吸玉																																
14 復習	29 箱灸																																
15 解説	30 解説																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>東洋医学概論 医道の日本社 東洋医学臨床論 南江堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験60点以上を合格とする。 試験は年2回実施。</p>																															

学科名 鍼灸学科	科目名 症候診断学	担当者 上垣内 敬司																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																														
配当学年・時期 2学年 前期 後期																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>一年次に学んだ東洋医学概論の知識を再確認し、三年次に行われる臨床実習に向けて、患者の症状からその病態を東洋医学的に把握し、治療方針を立てることができるようにする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>一年次に学んだ東洋医学概論の知識の再確認を行なった後、患者の症状からその病態を東洋医学的に把握し、治療方針を立てるトレーニングを行なう。また、治療を行う際の手技について学び、的確に施術できるよう、実技練習を行う。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>患者の症状からその病態を東洋医学的に把握し、治療方針を立てることができる。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1 ガイダンス、練習問題</td><td>16 弁証(臓腑弁証)</td></tr> <tr><td>2 復習 (気・血・津液・精)</td><td>17 弁証(臓腑弁証)</td></tr> <tr><td>3 復習 (気・血・津液・精)</td><td>18 弁証(臓腑弁証)</td></tr> <tr><td>4 復習 (気・血・津液・精)</td><td>19 症例トレーニング</td></tr> <tr><td>5 復習 (臓腑)</td><td>20 症例トレーニング</td></tr> <tr><td>6 復習 (臓腑)</td><td>21 症例トレーニング</td></tr> <tr><td>7 復習 (臓腑)</td><td>22 中国鍼</td></tr> <tr><td>8 弁証論治</td><td>23 中国鍼</td></tr> <tr><td>9 弁証論治</td><td>24 臨床経穴学</td></tr> <tr><td>10 弁証(八綱弁証)</td><td>25 臨床経穴学</td></tr> <tr><td>11 弁証(気血津液弁証)</td><td>26 臨床経穴学</td></tr> <tr><td>12 弁証(気血津液弁証)</td><td>27 臨床経穴学</td></tr> <tr><td>13 症例トレーニング</td><td>28 症例トレーニング</td></tr> <tr><td>14 症例トレーニング</td><td>29 症例トレーニング</td></tr> <tr><td>15 試験解説</td><td>30 試験解説</td></tr> </table>			1 ガイダンス、練習問題	16 弁証(臓腑弁証)	2 復習 (気・血・津液・精)	17 弁証(臓腑弁証)	3 復習 (気・血・津液・精)	18 弁証(臓腑弁証)	4 復習 (気・血・津液・精)	19 症例トレーニング	5 復習 (臓腑)	20 症例トレーニング	6 復習 (臓腑)	21 症例トレーニング	7 復習 (臓腑)	22 中国鍼	8 弁証論治	23 中国鍼	9 弁証論治	24 臨床経穴学	10 弁証(八綱弁証)	25 臨床経穴学	11 弁証(気血津液弁証)	26 臨床経穴学	12 弁証(気血津液弁証)	27 臨床経穴学	13 症例トレーニング	28 症例トレーニング	14 症例トレーニング	29 症例トレーニング	15 試験解説	30 試験解説
1 ガイダンス、練習問題	16 弁証(臓腑弁証)																															
2 復習 (気・血・津液・精)	17 弁証(臓腑弁証)																															
3 復習 (気・血・津液・精)	18 弁証(臓腑弁証)																															
4 復習 (気・血・津液・精)	19 症例トレーニング																															
5 復習 (臓腑)	20 症例トレーニング																															
6 復習 (臓腑)	21 症例トレーニング																															
7 復習 (臓腑)	22 中国鍼																															
8 弁証論治	23 中国鍼																															
9 弁証論治	24 臨床経穴学																															
10 弁証(八綱弁証)	25 臨床経穴学																															
11 弁証(気血津液弁証)	26 臨床経穴学																															
12 弁証(気血津液弁証)	27 臨床経穴学																															
13 症例トレーニング	28 症例トレーニング																															
14 症例トレーニング	29 症例トレーニング																															
15 試験解説	30 試験解説																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>東洋医学概論 医道の日本社 東洋医学臨床論 南江堂 やさしい中医学入門 東洋学術出版社 針灸学基礎篇 東洋学術出版社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験の成績・ミニテストの成績・平素の勉学状況等によって、100点満点で算出、60点以上を合格、60点未満を不合格とする。試験は年2回実施。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 経絡経穴概論Ⅱ	担当者 佐藤 隆誠																															
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 45回	時間数(単位数) 90時間 (3単位)	配当学年・時期 1学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																														
<p>[目的・ねらい]</p> <p>骨度法を運用し、教科書に記載された部位に正確に取穴できるようになる。 生体観察を行い、臨床に必要な身体の触り方の基礎を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>経絡経穴概論Ⅰで学習した経穴を、実際に人体で取穴していく。そのために必要な身体の基準点（筋、骨など）も確実に触れるように練習する。また、経絡の存在を実感できるような実験や、臨床に必要な経穴の反応を探る方法等も適宜行っていく。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>経絡経穴概論Ⅰで暗記した経穴の部位に、確実に取穴できるようになる。 体表から筋、骨、神経などを確実に触れるようになる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">1 概論</td><td style="width: 50%;">24～25 足の太陽膀胱経</td></tr> <tr><td>2 骨度法の基準点</td><td>26 足の少陰腎経</td></tr> <tr><td>3～4 督脈</td><td>27 手の厥陰心包経</td></tr> <tr><td>5 任脈</td><td>28 手の少陽三焦経</td></tr> <tr><td>6 手の太陰肺経</td><td>29～32 足の少陽胆経</td></tr> <tr><td>7～8 手の陽明大腸経</td><td>33 足の厥陰肝経</td></tr> <tr><td>9～11 足の陽明胃経</td><td>34 復習</td></tr> <tr><td>12～13 足の太陰脾経</td><td>35～36 奇経八脈</td></tr> <tr><td>14 復習</td><td>37～38 復習</td></tr> <tr><td>15 実技試験</td><td>39 実技試験</td></tr> <tr><td>16 復習</td><td>40～43 奇穴</td></tr> <tr><td>17～18 手の少陰心経</td><td>44 復習</td></tr> <tr><td>19～20 手の太陽小腸経</td><td>45 かぜの特効穴</td></tr> <tr><td>21～22 要穴</td><td></td></tr> <tr><td>23 足の太陽膀胱経</td><td></td></tr> </table>				1 概論	24～25 足の太陽膀胱経	2 骨度法の基準点	26 足の少陰腎経	3～4 督脈	27 手の厥陰心包経	5 任脈	28 手の少陽三焦経	6 手の太陰肺経	29～32 足の少陽胆経	7～8 手の陽明大腸経	33 足の厥陰肝経	9～11 足の陽明胃経	34 復習	12～13 足の太陰脾経	35～36 奇経八脈	14 復習	37～38 復習	15 実技試験	39 実技試験	16 復習	40～43 奇穴	17～18 手の少陰心経	44 復習	19～20 手の太陽小腸経	45 かぜの特効穴	21～22 要穴		23 足の太陽膀胱経	
1 概論	24～25 足の太陽膀胱経																																
2 骨度法の基準点	26 足の少陰腎経																																
3～4 督脈	27 手の厥陰心包経																																
5 任脈	28 手の少陽三焦経																																
6 手の太陰肺経	29～32 足の少陽胆経																																
7～8 手の陽明大腸経	33 足の厥陰肝経																																
9～11 足の陽明胃経	34 復習																																
12～13 足の太陰脾経	35～36 奇経八脈																																
14 復習	37～38 復習																																
15 実技試験	39 実技試験																																
16 復習	40～43 奇穴																																
17～18 手の少陰心経	44 復習																																
19～20 手の太陽小腸経	45 かぜの特効穴																																
21～22 要穴																																	
23 足の太陽膀胱経																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新版 経絡経穴概論 医道の日本社 ボディナビゲーション 改訂版 医道の日本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>課題と前期・後期実技試験にて評価する。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学		担当者 尾野 佳代																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>小児、女性、高齢者など幅広い世代の症状に対応できる能力を養う。同時に、国家試験合格に向けより高い正答率を目指す。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>小児、女性、高齢者に特有な症候・疾病に対する西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方を、「東洋医学臨床論」の教科書をベースに配布資料を交えて学習する。同時に、国家試験の過去問を解く。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>西洋医学的な考え方と東洋医学的な考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、各世代の特性を踏まえた適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p> <p>同時に、国家試験過去問の正答率80%以上を目指す。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 老年特有の症候</td> <td style="width: 50%;">16 女性特有の症候</td> </tr> <tr> <td>2 老年特有の症候</td> <td>17 月経異常</td> </tr> <tr> <td>3 老年特有の症候</td> <td>18 月経異常</td> </tr> <tr> <td>4 認知症</td> <td>19 月経異常</td> </tr> <tr> <td>5 認知症</td> <td>20 小児特有の症候</td> </tr> <tr> <td>6 認知症</td> <td>21 疳の虫</td> </tr> <tr> <td>7 血圧異常（高血圧／低血圧）</td> <td>22 疳の虫／夜尿症</td> </tr> <tr> <td>8 血圧異常（高血圧／低血圧）</td> <td>23 夜尿症</td> </tr> <tr> <td>9 血圧異常（高血圧／低血圧）</td> <td>24 発熱</td> </tr> <tr> <td>10 肥満</td> <td>25 発熱</td> </tr> <tr> <td>11 肥満</td> <td>26 のぼせ</td> </tr> <tr> <td>12 肥満</td> <td>27 のぼせ</td> </tr> <tr> <td>13 口渇</td> <td>28 冷え</td> </tr> <tr> <td>14 口渇</td> <td>29 冷え</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 試験解説</td> </tr> </table>				1 老年特有の症候	16 女性特有の症候	2 老年特有の症候	17 月経異常	3 老年特有の症候	18 月経異常	4 認知症	19 月経異常	5 認知症	20 小児特有の症候	6 認知症	21 疳の虫	7 血圧異常（高血圧／低血圧）	22 疳の虫／夜尿症	8 血圧異常（高血圧／低血圧）	23 夜尿症	9 血圧異常（高血圧／低血圧）	24 発熱	10 肥満	25 発熱	11 肥満	26 のぼせ	12 肥満	27 のぼせ	13 口渇	28 冷え	14 口渇	29 冷え	前期末試験	後期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 老年特有の症候	16 女性特有の症候																																		
2 老年特有の症候	17 月経異常																																		
3 老年特有の症候	18 月経異常																																		
4 認知症	19 月経異常																																		
5 認知症	20 小児特有の症候																																		
6 認知症	21 疳の虫																																		
7 血圧異常（高血圧／低血圧）	22 疳の虫／夜尿症																																		
8 血圧異常（高血圧／低血圧）	23 夜尿症																																		
9 血圧異常（高血圧／低血圧）	24 発熱																																		
10 肥満	25 発熱																																		
11 肥満	26 のぼせ																																		
12 肥満	27 のぼせ																																		
13 口渇	28 冷え																																		
14 口渇	29 冷え																																		
前期末試験	後期末試験																																		
15 試験解説	30 試験解説																																		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」南江堂  「新版 東洋医学概論」医道の日本社  「臨床医学各論第2版」医歯薬出版株式会社  「臨床医学総論第2版」医歯薬出版株式会社  「社会あはき学第3版」医道の日本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>年2回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。（学生便覧参照）</p>																																	

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 鍼灸基礎実習 I	担当者 上垣内 敬司																										
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black;">実習</span> )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)																										
		配当学年・時期 1 学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>																										
<p>[目的・ねらい]</p> <p>鍼実技に関する基本的な知識と技術を修得する。様々な長さ太さの毫鍼を身体各部位に、安全かつ確実に刺鍼できることを目標とするとともに、鍼灸の臨床家として相応しい態度や礼儀を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>①鍼の基礎知識 (用具、古代九鍼) ②刺鍼の方式と術式③臨床応用 (刺激量、感受性、適応、禁忌) ④リスク管理⑤刺鍼前の準備⑥基本実技の修得⑦身体各部位への刺鍼</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>鍼実技に関する基本的な知識と技術の修得</p>																												
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">31～33 斜刺 (交叉刺)</td> </tr> <tr> <td>2～6 鍼灸理論 (鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式など)</td> <td>34～35 横刺</td> </tr> <tr> <td>7 鍼灸理論、実技室の注意点、手の消毒</td> <td>36～44 身体各部位への刺鍼 (頭部、頸部、肩背部、腹部など)</td> </tr> <tr> <td>8～10 鍼灸理論、片手挿管</td> <td>45 実技試験要項</td> </tr> <tr> <td>11～12 鍼灸理論、弾入・切皮</td> <td>46～52 実技試験練習</td> </tr> <tr> <td>13～15 トイレットペーパーや枕を用いて弾入・切皮、旋撚刺法</td> <td>53 実技試験</td> </tr> <tr> <td>16～19 自分の下腿に刺鍼</td> <td>54 実技試験フィードバック</td> </tr> <tr> <td>20 実技試験要項</td> <td>55～60 身体各部位への刺鍼 (要穴)</td> </tr> <tr> <td>21～23 ペアアの下腿に刺鍼</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24 実技試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25 実技試験フィードバック</td> <td></td> </tr> <tr> <td>26 まとめ・筆記試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>27～30 伏臥位への刺鍼</td> <td></td> </tr> </table>			1 ガイダンス	31～33 斜刺 (交叉刺)	2～6 鍼灸理論 (鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式など)	34～35 横刺	7 鍼灸理論、実技室の注意点、手の消毒	36～44 身体各部位への刺鍼 (頭部、頸部、肩背部、腹部など)	8～10 鍼灸理論、片手挿管	45 実技試験要項	11～12 鍼灸理論、弾入・切皮	46～52 実技試験練習	13～15 トイレットペーパーや枕を用いて弾入・切皮、旋撚刺法	53 実技試験	16～19 自分の下腿に刺鍼	54 実技試験フィードバック	20 実技試験要項	55～60 身体各部位への刺鍼 (要穴)	21～23 ペアアの下腿に刺鍼		24 実技試験		25 実技試験フィードバック		26 まとめ・筆記試験		27～30 伏臥位への刺鍼	
1 ガイダンス	31～33 斜刺 (交叉刺)																											
2～6 鍼灸理論 (鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式など)	34～35 横刺																											
7 鍼灸理論、実技室の注意点、手の消毒	36～44 身体各部位への刺鍼 (頭部、頸部、肩背部、腹部など)																											
8～10 鍼灸理論、片手挿管	45 実技試験要項																											
11～12 鍼灸理論、弾入・切皮	46～52 実技試験練習																											
13～15 トイレットペーパーや枕を用いて弾入・切皮、旋撚刺法	53 実技試験																											
16～19 自分の下腿に刺鍼	54 実技試験フィードバック																											
20 実技試験要項	55～60 身体各部位への刺鍼 (要穴)																											
21～23 ペアアの下腿に刺鍼																												
24 実技試験																												
25 実技試験フィードバック																												
26 まとめ・筆記試験																												
27～30 伏臥位への刺鍼																												
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>はりきゅう実技&lt;基礎編&gt; 医道の日本 はりきゅう理論 医道の日本</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験、実技試験 (前期・後期) とともに 100 点満点で採点し、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする</p>																											

学科名 鍼灸学科	科目名 鍼灸基礎実習Ⅱ	担当者 尾野 龍一																																																																												
種類 (講義・演習・実習)	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期																																																																											
<p>[目的・ねらい] 施灸を行う上で必要な基本的な知識と技術を身につける。</p> <p>[内容の概要] もぐさのひねり方、ベニア板への施灸、竹筒を用いた施灸、自分への施灸、お互いに施灸と段階を踏み進めていく。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)] 人体への正確で安全な米粒大、半米粒大の透熱灸ができる。 形、大きさをそろえた艾炷を5分間で25壮程度の速さで施灸できる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション 灸の基礎知識①</td><td>16</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>灸の基礎知識② もぐさひねり練習</td><td>17</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>灸術の種類 灸療法の過誤と副作用</td><td>18</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>熱傷について もぐさひねり練習</td><td>19</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>艾炷作り練習</td><td>20</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>自分への施灸</td></tr> <tr><td>6</td><td>まとめ・筆記試験</td><td>21</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>自分への施灸</td></tr> <tr><td>7</td><td>試験解説 艾炷作り練習</td><td>22</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>自分への施灸</td></tr> <tr><td>8</td><td>艾炷作り練習 ベニア板への施灸</td><td>23</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>自分への施灸</td></tr> <tr><td>9</td><td>ベニア板への施灸</td><td>24</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>お互いに施灸</td></tr> <tr><td>10</td><td>ベニア板への施灸</td><td>25</td><td>竹筒を用いた施灸</td><td>お互いに施灸</td></tr> <tr><td>11</td><td>模擬試験①</td><td>26</td><td>模擬試験</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>模擬試験②</td><td>27</td><td>実技試験</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>実技試験</td><td>28</td><td>お互いに施灸</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>知熱灸・隔物灸</td><td>29</td><td>お互いに施灸</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>温筒灸・半米粒大の艾炷作り練習</td><td>30</td><td>お互いに施灸</td><td></td></tr> </table>				1	オリエンテーション 灸の基礎知識①	16	竹筒を用いた施灸		2	灸の基礎知識② もぐさひねり練習	17	竹筒を用いた施灸		3	灸術の種類 灸療法の過誤と副作用	18	竹筒を用いた施灸		4	熱傷について もぐさひねり練習	19	竹筒を用いた施灸		5	艾炷作り練習	20	竹筒を用いた施灸	自分への施灸	6	まとめ・筆記試験	21	竹筒を用いた施灸	自分への施灸	7	試験解説 艾炷作り練習	22	竹筒を用いた施灸	自分への施灸	8	艾炷作り練習 ベニア板への施灸	23	竹筒を用いた施灸	自分への施灸	9	ベニア板への施灸	24	竹筒を用いた施灸	お互いに施灸	10	ベニア板への施灸	25	竹筒を用いた施灸	お互いに施灸	11	模擬試験①	26	模擬試験		12	模擬試験②	27	実技試験		13	実技試験	28	お互いに施灸		14	知熱灸・隔物灸	29	お互いに施灸		15	温筒灸・半米粒大の艾炷作り練習	30	お互いに施灸	
1	オリエンテーション 灸の基礎知識①	16	竹筒を用いた施灸																																																																											
2	灸の基礎知識② もぐさひねり練習	17	竹筒を用いた施灸																																																																											
3	灸術の種類 灸療法の過誤と副作用	18	竹筒を用いた施灸																																																																											
4	熱傷について もぐさひねり練習	19	竹筒を用いた施灸																																																																											
5	艾炷作り練習	20	竹筒を用いた施灸	自分への施灸																																																																										
6	まとめ・筆記試験	21	竹筒を用いた施灸	自分への施灸																																																																										
7	試験解説 艾炷作り練習	22	竹筒を用いた施灸	自分への施灸																																																																										
8	艾炷作り練習 ベニア板への施灸	23	竹筒を用いた施灸	自分への施灸																																																																										
9	ベニア板への施灸	24	竹筒を用いた施灸	お互いに施灸																																																																										
10	ベニア板への施灸	25	竹筒を用いた施灸	お互いに施灸																																																																										
11	模擬試験①	26	模擬試験																																																																											
12	模擬試験②	27	実技試験																																																																											
13	実技試験	28	お互いに施灸																																																																											
14	知熱灸・隔物灸	29	お互いに施灸																																																																											
15	温筒灸・半米粒大の艾炷作り練習	30	お互いに施灸																																																																											
<p>[使用テキスト・参考文献] はりきゅう実技&lt;基礎編&gt; 第2版 はりきゅう理論 第3版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、実技試験(提出物含む)で評価を行う。 筆記試験60点以上かつ、実技試験60点以上の者を単位認定する。</p>																																																																												

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 鍼灸応用実習	担当者 上垣内 敬司		
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black;">実習</span> )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)		
配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>				
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に習得した技術を向上させ、適切かつ安全な鍼灸治療を一定時間内に行うための能力を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する鍼灸治療を一定時間内で実践する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>臨床実習を行うために必要な最低限度の技術を習得する。</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、一定時間内で適切に病態を把握し安全な鍼灸治療を行う。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1 シラバス説明・導入</p> <p>2～3 肩こりに対する鍼灸治療</p> <p>4～5 眼精疲労に対する鍼灸治療</p> <p>6～7 頭痛に対する鍼灸治療</p> <p>8～9 めまいに対する鍼灸治療</p> <p>10～11 耳鳴りと難聴に対する鍼灸治療</p> <p>12～13 鼻閉, 鼻汁に対する鍼灸治療</p> <p>14 中間まとめ・前期中間筆記試験</p> <p>15～16 咳嗽に対する鍼灸治療</p> <p>17 喘息に対する鍼灸治療</p> <p>18～19 胸痛に対する鍼灸治療</p> <p>20～21 腹痛に対する鍼灸治療</p> <p>22～23 実技試験練習</p> <p>24～25 前期実技試験</p> <p>26 復習</p> <p>27 悪心と嘔吐に対する鍼灸治療</p> <p>28 便秘に対する鍼灸治療</p> <p>前期末筆記試験</p> <p>29～30 下痢に対する鍼灸治療</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>31～32 頸椎症に対する鍼灸治療</p> <p>33～34 胸郭出口症候群に対する鍼灸治療</p> <p>35～36 絞扼神経障害に対する鍼灸治療</p> <p>37～38 肩関節痛に対する鍼灸治療</p> <p>39～41 腰下肢痛に対する鍼灸治療</p> <p>42～44 膝痛に対する鍼灸治療</p> <p>45 中間まとめ・後期中間筆記試験</p> <p>46～47 運動麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>48～49 顔面麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>50 顔面痛に対する鍼灸治療</p> <p>51 歯痛に対する鍼灸治療</p> <p>52 排尿障害に対する鍼灸治療</p> <p>53～54 実技試験練習</p> <p>55～56 後期実技試験</p> <p>57 復習</p> <p>58 月経異常に対する鍼灸治療</p> <p>後期末筆記試験</p> <p>59 食欲不振に対する鍼灸治療</p> <p>60 肥満に対する耳介療法</p> </td> </tr> </table>			<p>1 シラバス説明・導入</p> <p>2～3 肩こりに対する鍼灸治療</p> <p>4～5 眼精疲労に対する鍼灸治療</p> <p>6～7 頭痛に対する鍼灸治療</p> <p>8～9 めまいに対する鍼灸治療</p> <p>10～11 耳鳴りと難聴に対する鍼灸治療</p> <p>12～13 鼻閉, 鼻汁に対する鍼灸治療</p> <p>14 中間まとめ・前期中間筆記試験</p> <p>15～16 咳嗽に対する鍼灸治療</p> <p>17 喘息に対する鍼灸治療</p> <p>18～19 胸痛に対する鍼灸治療</p> <p>20～21 腹痛に対する鍼灸治療</p> <p>22～23 実技試験練習</p> <p>24～25 前期実技試験</p> <p>26 復習</p> <p>27 悪心と嘔吐に対する鍼灸治療</p> <p>28 便秘に対する鍼灸治療</p> <p>前期末筆記試験</p> <p>29～30 下痢に対する鍼灸治療</p>	<p>31～32 頸椎症に対する鍼灸治療</p> <p>33～34 胸郭出口症候群に対する鍼灸治療</p> <p>35～36 絞扼神経障害に対する鍼灸治療</p> <p>37～38 肩関節痛に対する鍼灸治療</p> <p>39～41 腰下肢痛に対する鍼灸治療</p> <p>42～44 膝痛に対する鍼灸治療</p> <p>45 中間まとめ・後期中間筆記試験</p> <p>46～47 運動麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>48～49 顔面麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>50 顔面痛に対する鍼灸治療</p> <p>51 歯痛に対する鍼灸治療</p> <p>52 排尿障害に対する鍼灸治療</p> <p>53～54 実技試験練習</p> <p>55～56 後期実技試験</p> <p>57 復習</p> <p>58 月経異常に対する鍼灸治療</p> <p>後期末筆記試験</p> <p>59 食欲不振に対する鍼灸治療</p> <p>60 肥満に対する耳介療法</p>
<p>1 シラバス説明・導入</p> <p>2～3 肩こりに対する鍼灸治療</p> <p>4～5 眼精疲労に対する鍼灸治療</p> <p>6～7 頭痛に対する鍼灸治療</p> <p>8～9 めまいに対する鍼灸治療</p> <p>10～11 耳鳴りと難聴に対する鍼灸治療</p> <p>12～13 鼻閉, 鼻汁に対する鍼灸治療</p> <p>14 中間まとめ・前期中間筆記試験</p> <p>15～16 咳嗽に対する鍼灸治療</p> <p>17 喘息に対する鍼灸治療</p> <p>18～19 胸痛に対する鍼灸治療</p> <p>20～21 腹痛に対する鍼灸治療</p> <p>22～23 実技試験練習</p> <p>24～25 前期実技試験</p> <p>26 復習</p> <p>27 悪心と嘔吐に対する鍼灸治療</p> <p>28 便秘に対する鍼灸治療</p> <p>前期末筆記試験</p> <p>29～30 下痢に対する鍼灸治療</p>	<p>31～32 頸椎症に対する鍼灸治療</p> <p>33～34 胸郭出口症候群に対する鍼灸治療</p> <p>35～36 絞扼神経障害に対する鍼灸治療</p> <p>37～38 肩関節痛に対する鍼灸治療</p> <p>39～41 腰下肢痛に対する鍼灸治療</p> <p>42～44 膝痛に対する鍼灸治療</p> <p>45 中間まとめ・後期中間筆記試験</p> <p>46～47 運動麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>48～49 顔面麻痺に対する鍼灸治療</p> <p>50 顔面痛に対する鍼灸治療</p> <p>51 歯痛に対する鍼灸治療</p> <p>52 排尿障害に対する鍼灸治療</p> <p>53～54 実技試験練習</p> <p>55～56 後期実技試験</p> <p>57 復習</p> <p>58 月経異常に対する鍼灸治療</p> <p>後期末筆記試験</p> <p>59 食欲不振に対する鍼灸治療</p> <p>60 肥満に対する耳介療法</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」南江堂</p> <p>「はりきゅう実技&lt;基礎編&gt;」医道の日本社</p> <p>「最新鍼灸治療学上巻・下巻」医道の日本社</p> <p>「図解鍼灸臨床手技マニュアル」医歯薬出版株式会社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 (中間・期末) および実技試験 (鍼・灸・取穴) の全てにおいて60点以上取得したものを合格とし単位取得を認める。</p>		

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学実習	担当者 尾野 龍一																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																														
配当学年・時期 3学年 前期 後期																																
<p>臨床上、遭遇する可能性の高い疾患や症状に対する治療法を教授する。</p> <p>[目的・ねらい] 現代社会における鍼灸治療の現状と課題を踏まえ、社会的ニーズの多様化に対応できる能力の修得を目指す。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)] 高齢者ならびに婦人科・小児科など幅広い世代の特性に応じた、適切かつ安全な鍼灸治療を行うことができる。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr><td>1 頭皮鍼 パーキンソン病</td><td>16 食欲不振</td></tr> <tr><td>2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①</td><td>17 排尿障害</td></tr> <tr><td>3 脳血管障害後遺症②</td><td>18 実技試験練習</td></tr> <tr><td>4 脳血管障害後遺症③</td><td>19 実技試験練習</td></tr> <tr><td>5 顔面麻痺</td><td>20 実技試験練習</td></tr> <tr><td>6 高血圧症</td><td>21 実技試験練習</td></tr> <tr><td>7 特発性肋間神経痛</td><td>22 月経異常</td></tr> <tr><td>8 実技試験練習</td><td>23 冷え症</td></tr> <tr><td>9 実技試験練習</td><td>24 睡眠障害</td></tr> <tr><td>10 実技試験練習</td><td>25 疲労と倦怠</td></tr> <tr><td>11 前期実技試験</td><td>26 浮腫</td></tr> <tr><td>12 腹部触診および腹部への施鍼・施灸</td><td>27 予備</td></tr> <tr><td>13 過敏性腸症候群</td><td>28 模擬治療</td></tr> <tr><td>14 下痢</td><td>29 模擬治療</td></tr> <tr><td>15 悪心・嘔吐</td><td>30 模擬治療</td></tr> </table>			1 頭皮鍼 パーキンソン病	16 食欲不振	2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	17 排尿障害	3 脳血管障害後遺症②	18 実技試験練習	4 脳血管障害後遺症③	19 実技試験練習	5 顔面麻痺	20 実技試験練習	6 高血圧症	21 実技試験練習	7 特発性肋間神経痛	22 月経異常	8 実技試験練習	23 冷え症	9 実技試験練習	24 睡眠障害	10 実技試験練習	25 疲労と倦怠	11 前期実技試験	26 浮腫	12 腹部触診および腹部への施鍼・施灸	27 予備	13 過敏性腸症候群	28 模擬治療	14 下痢	29 模擬治療	15 悪心・嘔吐	30 模擬治療
1 頭皮鍼 パーキンソン病	16 食欲不振																															
2 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	17 排尿障害																															
3 脳血管障害後遺症②	18 実技試験練習																															
4 脳血管障害後遺症③	19 実技試験練習																															
5 顔面麻痺	20 実技試験練習																															
6 高血圧症	21 実技試験練習																															
7 特発性肋間神経痛	22 月経異常																															
8 実技試験練習	23 冷え症																															
9 実技試験練習	24 睡眠障害																															
10 実技試験練習	25 疲労と倦怠																															
11 前期実技試験	26 浮腫																															
12 腹部触診および腹部への施鍼・施灸	27 予備																															
13 過敏性腸症候群	28 模擬治療																															
14 下痢	29 模擬治療																															
15 悪心・嘔吐	30 模擬治療																															
<p>[使用テキスト・参考文献] 「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」南江堂 「はりきゅう実技&lt;基礎編&gt;第2版」医道の日本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 前期・後期の実技試験で評価を行う。 実技試験の詳細については実施要項参照。 後期実技試験は「各種療法」と共通評価とする。 前期・後期実技試験共に60点以上の者を単位認定する。</p>																														

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 徒手検査法	担当者 原野雄矢
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)
配当学年・時期 2学年 前期 <b>後期</b>		
<p>[目的・ねらい] 各徒手検査法の目的や意義を理解したうえで、臨床に役立てることができる。</p> <p>[内容の概要] 各整形外科疾患及び脳神経系の検査法を学ぶ。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)] 病態把握に必要な検査法のテクニックを身に付け将来の臨床に役立てることを目標とする。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 上肢・下肢の神経学的診察</li> <li>2 頸部・頸肩腕症候群に対する検査法</li> <li>3 上肢痛に対する検査法</li> <li>4 肩関節痛に対する検査法</li> <li>5 腰痛に対する検査法</li> <li>6 膝痛に対する検査法</li> <li>7 復習</li> <li>8 中間試験</li> <li>9 めまい・難聴に対する検査法</li> <li>10 頭痛に対する検査法</li> <li>11 脳神経に対する検査法①</li> <li>12 脳神経に対する検査法②</li> <li>13 腹部に対する検査法</li> <li>14 期末試験</li> <li>15 復習</li> </ol>		
[使用テキスト・参考文献] 臨床医学総論 医歯薬出版		[単位認定の方法及び基準] 実技試験において評価する。

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 鍼灸各種療法	担当者 鍼灸学科教員
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2 単位)
配当学年・時期 3 学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>様々な治療法を学ぶことは、我々に多くのことを学ばせてくれる。また、学生のうちに多くの治療法に触れておくことは将来自分の臨床スタイルを形成する手がかりとなり、偏った知識・技術ではなく幅広い視野で鍼灸業界を見ていく目を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床現場で最低限必要な技術の修得、全身調整法、経絡治療、いやしの道、長野式治療法、中医学的治療法、深谷灸法、スポーツ鍼灸など</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>臨床現場で最低限必要な技術の修得、並びに臨床スタイルの形成</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
前期		後期
1 Tメソッド1		16 実技試験説明
2 経絡治療1		17 実技試験練習
3 経絡治療2		18 実技試験練習
4 経絡治療3		19 実技試験練習
5 実技試験説明・練習		20 実技試験練習
6 Tメソッド2		21 実技試験
7 深谷灸法1		22 運動鍼
8 深谷灸法2		23 中国鍼
9 深谷灸法3		24 認知症1
10 刺絡		25 認知症2
11 傍神経刺		26 長野式キーコストایل1
12 実技試験		27 長野式キーコストایل2
13 いやしの道1		28 長野式キーコストایل3
14 いやしの道2		29 長野式キーコストایل4
15 いやしの道3		30 長野式キーコストایل5
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実技試験 100 点満点で採点し、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床実習 I	担当者 尾野佳・上垣内・佐藤・副田
種類 ( 講義・演習・ <b>実習</b> )	時間数(単位数) 45時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年 前期 <b>後期</b>
<p>[目的・ねらい]</p> <p>実際の鍼灸臨床現場において、患者に対する治療の見学を通じ、医療従事者としての態度や習慣を身に付けることを目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>校内鍼灸治療室で実習を行う。見学を通して治療室や施術の準備、入室～治療～退室までの流れ、片付けを把握する。段階に応じて、準備や片付けを担当する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>準備や片付けを自発的に行うことができる。 施術の流れをしっかりと把握し適切な対応ができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <p>I. 場 所：1階鍼灸治療室</p> <p>II. 曜 日：水曜日・金曜日</p> <p>III. 担当教員：水曜日…佐藤隆誠・副田恵子 金曜日…上垣内敬司・原野雄矢</p> <p>IV. 実施期間：令和7年10月1日（水）～令和8年2月6日（金）予定</p> <p>※詳細は別紙「臨床実習授業概要（詳細）」 「臨床実習日程表」参照。</p>		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実習および実習日誌の内容、出席状況によって総合的に評価する。

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床実習Ⅱ		担当者 南一成
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	回数 5回	時間数(単位数) 45時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 <b>前期</b> <b>後期</b>
<p>[目的・ねらい]</p> <p>実際の臨床現場において、患者に対する治療の見学を通じ、医療従事者としての態度や習慣を身に付けることを目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>各医療機関で実習を行う。見学を通して治療室や施術の準備、入室～治療～退室までの流れ、片付けを把握する。段階に応じて、準備や片付けを担当する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>準備や片付けを自発的に行うことができる。                  施術の流れをしっかりと把握し適切な対応ができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <p>校外臨床実習(予定)</p> <p>場 所：①みどり鍼灸治療院                  ②寛田クリニック                  ③呉整形外科クリニック                  ④アイハンド訪問鍼灸治療院</p> <p>日 程：2025年7月～</p> <p>※詳細は別紙「臨床実習授業概要」参照。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習および実習日誌の内容、出席状況によって総合的に評価する。	

学科名 鍼灸学科	科目名 臨床実習Ⅲ	担当者 佐藤・上垣内・副田・原野
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	時間数(単位数) 90時間(2単位)	配当学年・時期 3学年 <b>前期</b> <b>後期</b>
<p>[目的・ねらい]</p> <p>実際の鍼灸臨床現場において、患者に対する治療の見学および鍼灸施術を通じ、授業で習得した知識や技術を広く応用させ、医療従事者としての態度や習慣を身に付けることを目的とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>入室～治療～退室までの流れを把握する。本校1階鍼灸治療室にて、指導教員監督のもと、治療の準備や片付け、医療面接、病態の推察、治療のサポート（取穴や刺鍼および施灸）、カルテの記載などを行い、毎回レポートを提出する。授業内臨床実習では、1年生の治療と症例報告を行う。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>一連の治療の流れを把握し、全てを自分でを行い、患者に対し安全で適切な鍼灸治療を提供する。また、自らの問題点を見つけ、自発的な学習により解決することができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <p>①場 所：1階鍼灸治療室、2階・3階実技室</p> <p>②日 程：2025年4月9日（水）～2月上旬予定</p> <p>③時 間：放課後実習…開始時刻13時20分／終了時刻16時30分 授業内実習…後期金曜日3限目予定</p> <p>④曜 日：月曜日・火曜日・水曜日</p> <p>⑤担当教員：月曜日…原野雄矢 火曜日…上垣内敬司 水曜日…佐藤隆誠・副田恵子</p> <p>※詳細は別紙「臨床実習授業概要（詳細）」「臨床実習日程表」参照。</p>		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 毎回の実習および実習日誌の内容、出席状況によって総合的に評価する。

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 総合演習 I	担当者 南 一成																														
種類 ( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																														
配当学年・時期 3学年 <b>前期</b> <b>後期</b>																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に学習した解剖学の総復習を行うことで、国家試験で確実に得点できるようにする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>国試ポイントを確認し、問題演習をおこなう。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>国試レベルの問題が自信を持って解けることを目標とする。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 人体の構成①</td> <td style="width: 50%;">16 生殖器系①</td> </tr> <tr> <td>2 人体の構成②</td> <td>17 生殖器系②</td> </tr> <tr> <td>3 循環器系① 心臓</td> <td>18 内分泌系</td> </tr> <tr> <td>4 循環器系② 動脈1</td> <td>19 中枢神経系①</td> </tr> <tr> <td>5 循環器系③ 動脈2</td> <td>20 中枢神経系②</td> </tr> <tr> <td>6 循環器系④ 静脈</td> <td>21 末梢神経系①</td> </tr> <tr> <td>7 循環器系⑤ 胎児循環・リンパ系</td> <td>22 末梢神経系②</td> </tr> <tr> <td>8 呼吸器系①</td> <td>23 中間試験</td> </tr> <tr> <td>9 呼吸器系②</td> <td>24 感覚器系①</td> </tr> <tr> <td>10 中間試験</td> <td>25 感覚器系②</td> </tr> <tr> <td>11 消化器系①</td> <td>26 体幹 骨格系</td> </tr> <tr> <td>12 消化器系②まとめ・</td> <td>27 体幹 筋系</td> </tr> <tr> <td>13 泌尿器系①</td> <td>28 運動器系 上肢</td> </tr> <tr> <td>14 泌尿器系②</td> <td>29 運動器系 下肢</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td>30 まとめ</td> </tr> </table>			1 人体の構成①	16 生殖器系①	2 人体の構成②	17 生殖器系②	3 循環器系① 心臓	18 内分泌系	4 循環器系② 動脈1	19 中枢神経系①	5 循環器系③ 動脈2	20 中枢神経系②	6 循環器系④ 静脈	21 末梢神経系①	7 循環器系⑤ 胎児循環・リンパ系	22 末梢神経系②	8 呼吸器系①	23 中間試験	9 呼吸器系②	24 感覚器系①	10 中間試験	25 感覚器系②	11 消化器系①	26 体幹 骨格系	12 消化器系②まとめ・	27 体幹 筋系	13 泌尿器系①	28 運動器系 上肢	14 泌尿器系②	29 運動器系 下肢	15 まとめ	30 まとめ
1 人体の構成①	16 生殖器系①																															
2 人体の構成②	17 生殖器系②																															
3 循環器系① 心臓	18 内分泌系																															
4 循環器系② 動脈1	19 中枢神経系①																															
5 循環器系③ 動脈2	20 中枢神経系②																															
6 循環器系④ 静脈	21 末梢神経系①																															
7 循環器系⑤ 胎児循環・リンパ系	22 末梢神経系②																															
8 呼吸器系①	23 中間試験																															
9 呼吸器系②	24 感覚器系①																															
10 中間試験	25 感覚器系②																															
11 消化器系①	26 体幹 骨格系																															
12 消化器系②まとめ・	27 体幹 筋系																															
13 泌尿器系①	28 運動器系 上肢																															
14 泌尿器系②	29 運動器系 下肢																															
15 まとめ	30 まとめ																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>解剖学 医歯薬出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>中間試験、期末試験にて評価する。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 総合演習Ⅱ	担当者 上垣内 敬司																															
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期																														
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次・2年次に学習した内容の知識の定着をはかるとともに、国家試験に合格できる知識を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>1年次・2年次に学習した内容を再確認し、問題を解きながら国家試験合格に向けてトレーニングを行なう。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>国家試験に合格できる知識を身につける。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>1 確認テスト</td><td>16 神経</td></tr> <tr><td>2 解説</td><td>17 神経</td></tr> <tr><td>3 循環</td><td>18 神経</td></tr> <tr><td>4 循環</td><td>19 生殖・成長と老化</td></tr> <tr><td>5 呼吸</td><td>20 筋</td></tr> <tr><td>6 呼吸</td><td>21 運動</td></tr> <tr><td>7 内分泌</td><td>22 感覚</td></tr> <tr><td>8 内分泌</td><td>23～29 問題・解説</td></tr> <tr><td>9 生殖・成長と老化</td><td>30 後期期末試験解説</td></tr> <tr><td>10 生理学の基礎・血液</td><td></td></tr> <tr><td>11 消化と吸収</td><td></td></tr> <tr><td>12 栄養と代謝</td><td></td></tr> <tr><td>13 体温</td><td></td></tr> <tr><td>14 排泄</td><td></td></tr> <tr><td>15 前期期末試験解説</td><td></td></tr> </table>				1 確認テスト	16 神経	2 解説	17 神経	3 循環	18 神経	4 循環	19 生殖・成長と老化	5 呼吸	20 筋	6 呼吸	21 運動	7 内分泌	22 感覚	8 内分泌	23～29 問題・解説	9 生殖・成長と老化	30 後期期末試験解説	10 生理学の基礎・血液		11 消化と吸収		12 栄養と代謝		13 体温		14 排泄		15 前期期末試験解説	
1 確認テスト	16 神経																																
2 解説	17 神経																																
3 循環	18 神経																																
4 循環	19 生殖・成長と老化																																
5 呼吸	20 筋																																
6 呼吸	21 運動																																
7 内分泌	22 感覚																																
8 内分泌	23～29 問題・解説																																
9 生殖・成長と老化	30 後期期末試験解説																																
10 生理学の基礎・血液																																	
11 消化と吸収																																	
12 栄養と代謝																																	
13 体温																																	
14 排泄																																	
15 前期期末試験解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>生理学 医歯薬出版株式会社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験の成績・平素の勉学状況等によって、100点満点で算出、60点以上を合格、60点未満を不合格とする</p> <p>試験は客観的試験(期末)を行なう。</p>																															

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 総合演習Ⅲ	担当者 上垣内 敬司			
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2単位)	配当学年・時期 3学年 前期 後期		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>2年次に学習した臨床医学各論・総論の内容を再確認し、来るべき国家試験に向けて必要な知識を習得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>前期は2年次に学習しなかった13章その他の疾患・1章感染症を中心に学んでいく。 後期は各論・総論の練習問題を通じて国家試験対策を進めていく。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>国家試験問題を解答するのに必要な知識の修得</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(前期)</p> <p>1 ガイダンス、細菌感染症</p> <p>2 ウイルス感染症</p> <p>3 性感染症</p> <p>4 婦人科疾患</p> <p>5 皮膚科</p> <p>6 眼科</p> <p>7 耳鼻科</p> <p>8 精神科</p> <p>9 心療内科</p> <p>10 外科</p> <p>11 麻酔科</p> <p>12～14 予備日</p> <p>15 前期期末試験解説</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(後期)</p> <p>16 消化器疾患</p> <p>17 肝胆膵疾患</p> <p>18 呼吸器疾患</p> <p>19 腎・尿器疾患</p> <p>20 内分泌疾患</p> <p>21 代謝・栄養疾患</p> <p>22 整形外科疾患</p> <p>23 循環器疾患</p> <p>24 血液疾患</p> <p>25 神経疾患</p> <p>26 膠原病</p> <p>27～29 臨床医学総論</p> <p>30 後期期末試験解説</p> </td> </tr> </table>				<p>(前期)</p> <p>1 ガイダンス、細菌感染症</p> <p>2 ウイルス感染症</p> <p>3 性感染症</p> <p>4 婦人科疾患</p> <p>5 皮膚科</p> <p>6 眼科</p> <p>7 耳鼻科</p> <p>8 精神科</p> <p>9 心療内科</p> <p>10 外科</p> <p>11 麻酔科</p> <p>12～14 予備日</p> <p>15 前期期末試験解説</p>	<p>(後期)</p> <p>16 消化器疾患</p> <p>17 肝胆膵疾患</p> <p>18 呼吸器疾患</p> <p>19 腎・尿器疾患</p> <p>20 内分泌疾患</p> <p>21 代謝・栄養疾患</p> <p>22 整形外科疾患</p> <p>23 循環器疾患</p> <p>24 血液疾患</p> <p>25 神経疾患</p> <p>26 膠原病</p> <p>27～29 臨床医学総論</p> <p>30 後期期末試験解説</p>
<p>(前期)</p> <p>1 ガイダンス、細菌感染症</p> <p>2 ウイルス感染症</p> <p>3 性感染症</p> <p>4 婦人科疾患</p> <p>5 皮膚科</p> <p>6 眼科</p> <p>7 耳鼻科</p> <p>8 精神科</p> <p>9 心療内科</p> <p>10 外科</p> <p>11 麻酔科</p> <p>12～14 予備日</p> <p>15 前期期末試験解説</p>	<p>(後期)</p> <p>16 消化器疾患</p> <p>17 肝胆膵疾患</p> <p>18 呼吸器疾患</p> <p>19 腎・尿器疾患</p> <p>20 内分泌疾患</p> <p>21 代謝・栄養疾患</p> <p>22 整形外科疾患</p> <p>23 循環器疾患</p> <p>24 血液疾患</p> <p>25 神経疾患</p> <p>26 膠原病</p> <p>27～29 臨床医学総論</p> <p>30 後期期末試験解説</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>臨床医学各論 医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 医歯薬出版株式会社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 100点満点で採点し、60点以上を合格、60点未満を不合格とする。各論は前後期試験2回の平均、総論は後期試験の1回で評価する</p>			

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 総合演習Ⅳ	担当者 藏田 健悟																														
種類 ( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																														
配当学年・時期 3学年 <b>前期</b> <b>後期</b>																																
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1, 2年次に学習した東洋医学概論・リハビリテーション医学・経絡経穴概論の総復習を行うことで、国家試験で確実に得点できるようにする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>東洋医学概論・リハビリテーション医学・経絡経穴概論の項目別まとめ、問題演習、国試過去問演習、臨床応用の紹介。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>国試レベルの問題が自信を持って解けることを目標とする。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="1"> <tr> <td>1 東洋医学概論の傾向、頻出問題</td> <td>1 脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>2 五行論</td> <td>2 切断・小児・呼吸器・循環器のリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>3 気</td> <td>3 運動器・神経疾患のリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>4 蔵象論 (六蔵)</td> <td>4 経絡経穴概論の傾向、頻出問題</td> </tr> <tr> <td>5 病因論 (三因論)</td> <td>5 経絡・経脈に関して</td> </tr> <tr> <td>6 病理・病証 (五臓六腑)</td> <td>6 骨度法</td> </tr> <tr> <td>7 経脈病証</td> <td>7 要穴①</td> </tr> <tr> <td>8 四診法</td> <td>8 要穴②</td> </tr> <tr> <td>9 鍼灸治療の法則</td> <td>9 八会穴、八脈交会穴</td> </tr> <tr> <td>10 陰陽論、血・水・神、蔵象論</td> <td>10 奇穴</td> </tr> <tr> <td>11 経絡論、病因論、病理・病証①</td> <td>11 神経に関する配穴</td> </tr> <tr> <td>12 病理・病証②、古代刺法</td> <td>12 筋腱に関する配穴</td> </tr> <tr> <td>13 リハビリテーションの概要</td> <td>13 横並び、骨・動脈に関する配穴</td> </tr> <tr> <td>14 障害の評価</td> <td>14 取穴法</td> </tr> <tr> <td>15 リハビリテーション治療、運動学</td> <td>15 経穴の臨床</td> </tr> </table>			1 東洋医学概論の傾向、頻出問題	1 脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーション	2 五行論	2 切断・小児・呼吸器・循環器のリハビリテーション	3 気	3 運動器・神経疾患のリハビリテーション	4 蔵象論 (六蔵)	4 経絡経穴概論の傾向、頻出問題	5 病因論 (三因論)	5 経絡・経脈に関して	6 病理・病証 (五臓六腑)	6 骨度法	7 経脈病証	7 要穴①	8 四診法	8 要穴②	9 鍼灸治療の法則	9 八会穴、八脈交会穴	10 陰陽論、血・水・神、蔵象論	10 奇穴	11 経絡論、病因論、病理・病証①	11 神経に関する配穴	12 病理・病証②、古代刺法	12 筋腱に関する配穴	13 リハビリテーションの概要	13 横並び、骨・動脈に関する配穴	14 障害の評価	14 取穴法	15 リハビリテーション治療、運動学	15 経穴の臨床
1 東洋医学概論の傾向、頻出問題	1 脳卒中・脊髄損傷のリハビリテーション																															
2 五行論	2 切断・小児・呼吸器・循環器のリハビリテーション																															
3 気	3 運動器・神経疾患のリハビリテーション																															
4 蔵象論 (六蔵)	4 経絡経穴概論の傾向、頻出問題																															
5 病因論 (三因論)	5 経絡・経脈に関して																															
6 病理・病証 (五臓六腑)	6 骨度法																															
7 経脈病証	7 要穴①																															
8 四診法	8 要穴②																															
9 鍼灸治療の法則	9 八会穴、八脈交会穴																															
10 陰陽論、血・水・神、蔵象論	10 奇穴																															
11 経絡論、病因論、病理・病証①	11 神経に関する配穴																															
12 病理・病証②、古代刺法	12 筋腱に関する配穴																															
13 リハビリテーションの概要	13 横並び、骨・動脈に関する配穴																															
14 障害の評価	14 取穴法																															
15 リハビリテーション治療、運動学	15 経穴の臨床																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>東洋医学概論 医道の日本社                  リハビリテーション医学 医道の日本社                  経絡経穴概論 医道の日本社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験にて評価し、それぞれ6割以上を合格とする。</p>																															

2025年度授業概要

必修

学科名 鍼灸学科	科目名 医療面接	担当者 原野雄矢
種類 ( <span style="border: 1px solid black;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 ( 1単位)
配当学年・時期 2学年 前期 <span style="border: 1px solid black;">後期</span>		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>臨床において重要な医療面接について、基礎的な知識とともに現場で通用する技術を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>基礎的な講義やロールプレイを通じて理解を深め、実践力およびコミュニケーション力を身につける。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>臨床実習や卒後の臨床現場に必要なレベルの医療面接を行えるようになる。 また、患者と良好なコミュニケーションをとれるようにする。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療面接とは①</li> <li>2 医療面接とは②</li> <li>3 医療面接とは③</li> <li>4 各論①（医療面接と問診の違い・雰囲気作り）</li> <li>5 各論②（質問内容 総論）</li> <li>6 各論③（質問内容 各論）</li> <li>7 医療面接に求められる態度</li> <li>8 カルテの書き方①</li> <li>9 カルテの書き方②</li> <li>10 患者の解釈モデルを聞く その他</li> <li>11 ロールプレイ①</li> <li>12 ロールプレイ②</li> <li>13 ロールプレイ③</li> <li>14 ロールプレイ④</li> <li>15 まとめ</li> </ol>		
[使用テキスト・参考文献] 鍼灸臨床における医療面接（医道の日本社）		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 60 点以上で合格とする。